EPSON

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-NL ・ User's Manual

オフィスシリーズ Type-NL

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。
標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウエアの使用方法や
インストール方法について説明しています。

(D)

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

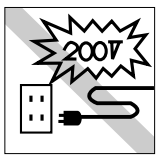
⚠注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠警 告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

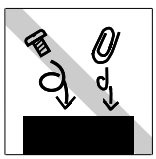
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。

表示されている電源（交流100V）以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。感電・火災の原因となります。



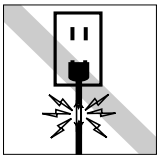
⚠警 告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

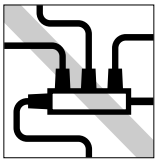
破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

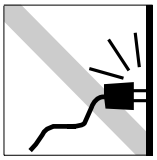


電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



本体や付属のバッテリパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。
破裂などで火傷の原因となります。

バッテリパックの端子をショートさせないでください。
火傷の原因となります。

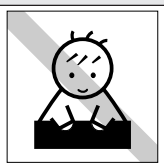
付属のACアダプタやバッテリパックを分解しないでください。
火傷や、化学物質による被害の原因となります。

小さなお子さまの手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま分解しないでください。感電や火傷の原因となります。

⚠ 注 意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

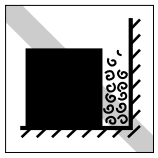


不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

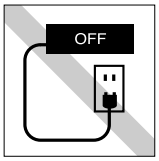
湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

- 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- じゅうたんや布団の上
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

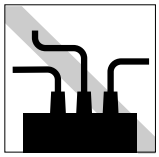


連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。



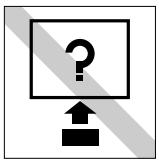
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



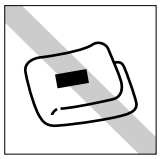
バッテリパックは､落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
火傷や､化学物質による被害の原因となります。

ACアダプタやバッテリパックは、指定のコンピュータ以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。



⚠ 注 意

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。



破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となる恐れがあります。

長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となる恐れがあります。

バッテリパックやメモリの交換などは本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は、流水で充分に洗い、医師に相談してください。

ひざの上で使用しないでくだい。通風孔がふさがることにより、本体底面が熱くなり、低温やけどの危険があります。

● コンピュータが届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方/切り方などについて説明します。

● 使ってみましょう

本製品の各部の名称や使い方について説明します。

● システムを拡張する

コンピュータに接続できる機器についての説明や取り付け方法について説明します。

● BIOSの設定

「BIOS Setupユーティリティ」を使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法について説明します。

● 付録

お手入れ方法、ハードディスクドライブを購入時の状態に戻す方法や仕様などについて説明します。

目　次

マニュアル中の表記について　(9)

製品保護上の注意　(11)

使用・保管時の注意 ..... (11)
記録メディア ..... (12)

コンピュータが届いたら

ご使用の前に　2

ご使用の前の確認事項 2
コンピュータを使い始めるまでの手順 .. 3
本機の特長 4
添付ソフトウェアの概要 5

各部の名称と働き　7

正面・右側面 7
左側面 9
底面 9
背面 10

ハードウェアをセットアップしましょう　11

電源の入れ方とWindowsのセットアップ　15

電源を入れる前に 15
電源の入れ方とWindowsの起動 16

Windows98インストールモデルのセットアップ　17

Windows98のセットアップ 17
セットアップ終了後の作業 19
Windows使用時の確認事項 20

電源の切り方　22

Windows98の終了と電源の切り方 22
リセット 23

使ってみましょう

ACアダプタ/バッテリパックを使う　26

バッテリパックを使う 27
バッテリ残量の確認 28
バッテリ残量が少なくなったら 29
バッテリの充電 31
バッテリ残量が正しく
表示されないときは 32
バッテリの交換 33
バッテリ保管上の注意 35

タッチパッドを使う　36

タッチパッドの操作 36
タッチパッドドライバ&
ユーティリティを使う 38
マウスの接続 39

キーボードを使う　40

キーの種類と役割 40
外付けキーボードの接続 43
ホットキーを設定する 44

FDD（フロッピーディスクドライブ）を使う48

FDのセットと取り出し 49
コンピュータ持ち運び時の注意 49
FDのフォーマット 50
データのバックアップ 50
ライトプロテクト（書き込み禁止）51

HDD（ハードディスクドライブ）を使う　52

HDDのバックアップ 52
HDDのフォーマット 53

CD-ROMドライブを使う　54

メディアのセットと取り出し 54
強制的なメディアの取り出し 56

PCカードを使う 57
PCカードのセットと取り外し 58
赤外線通信を使う 61
赤外線通信を使うための準備 61
赤外線通信の実行 63
表示装置を使う 65
LCDユニット 65
CRTディスプレイ 66
表示装置の切り替え方法 67
解像度や表示色を変更する 71
表示できる解像度と表示色 72
サウンド機能を使う 73
FAXモデムを使う 76
お使いになる前に 76
インターネットに接続するには 78
ダイヤルするための準備 81
オンラインでプロバイダと契約する .. 81
手動でダイヤルアップ接続の設定をする ... 83
インターネットへの接続と切断 85
Internet Explorerと
Outlook Expressの使い方 87
Internet Explorerの使い方 87
Outlook Expressの使い方 89
省電力機能を使う 91
省電力機能の種類 91
省電力機能使用時の制限 93
実行方法 94
復帰方法 96
そのほかの機能 97
ネットワーク機能 97
パラレルコネクタ 97
シリアルコネクタ 98
USBコネクタ 98
コンピュータウィルスの検索・駆除 98

システムを拡張する

拡張できる装置 100
メモリモジュールの増設 101
作業時の注意 101
SODIMMの増設 102
外付け可能な周辺機器 106

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に 108
BIOS Setupユーティリティの操作 109
BIOS Setupユーティリティの起動 .. 109
BIOS Setupユーティリティの操作 .. 109
設定値をもとに戻すには 111
BIOS Setupユーティリティの終了 .. 112
BIOS Setupユーティリティの設定項目 113
Mainメニュー画面 113
Advancedメニュー画面 115
Securityメニュー画面 117
Powerメニュー画面 119
Bootメニュー画面 120
Exitメニュー画面 121
BIOS Setuupユーティリティの設定値 ... 122

こんなときは

困ったときに 126

コンピュータ本体の不具合 126
省電力機能に関する不具合 129
バッテリパック使用時の不具合 130
キーボードの不具合 131
タッチパッドの不具合 131
LCDの不具合 132
FDDの不具合 133
HDDの不具合 134
CD-ROMドライブの不具合 135
アプリケーションソフトの不具合 136
メモリの不具合 137
PCカードの不具合 137
プリンタの不具合 138
スピーカの不具合 138
FAXモデムの不具合 139

警告メッセージが表示されたら 141

付録

お手入れ 144

本機のお手入れ 144

リチウム電池の交換 145

ATコマンドの使用 146

HDDを購入時の状態に戻す 147

必要なメディア 147
HDDを購入時の状態に戻す順番 ... 147
HDDを購入時の状態に戻す前の注意 .. 148
リカバリの実行 150
VirusScan for Windowsのインストール 151
各種ドライバのインストール 153
Save to Disk領域の作成 153

HDD領域の変更 155

MS-DOS領域の種類 155
HDD領域の変更 156
既存領域の削除 157
MS-DOS領域の作成 159
MS-DOS領域のフォーマット 162

コネクタ仕様 163

機能仕様一覧 165

用語集 166

索引 172

マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載してあります。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載してあります。

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

1 2

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。
↵はEnterキーを表します。また、N は Nみ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD	**ハードディスクドライブ**
FD	**フロッピーディスク**
FDD	**フロッピーディスクドライブ**

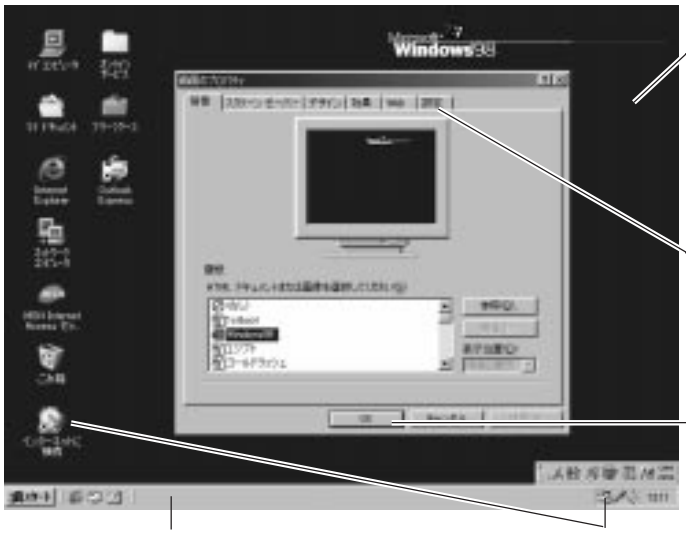
オペレーションシステムに関する記述

本書では、オペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows98	**Microsoft® Windows® 98 Operating system**
MS-DOS	**Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V**

Windowsの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



デスクトップ
Windowsが起動して、ディスプレイに表示される画面。

タブ

ボタン

タスクバー
起動中のアプリケーションが表示されたり、画面の設定、音量の設定ができるアイコンが表示されるバー。

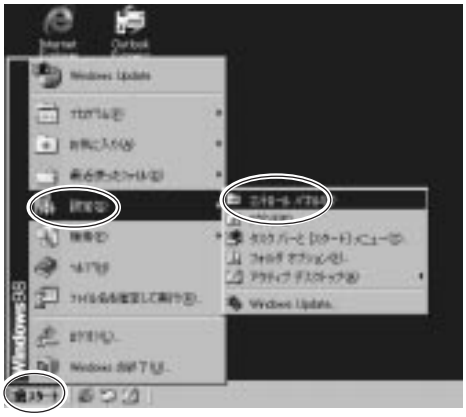
アイコン
デスクトップ上に並んでいる小さなイラスト。
機能などをイラストで表示しています。

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例　　：［スタート］をクリックします。

実際の操作　：スタートをクリックします。



●記載例　　：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作　：① **［スタート］**をクリックします。

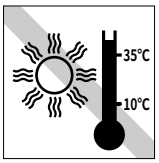
② 表示されたメニューから**「設定」**をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから**「コントロールパネル」**をクリックします。

製品保護上の注意

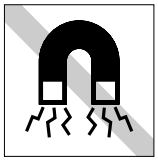
使用・保管時の注意

コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。

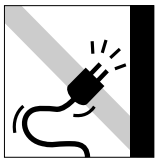


温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

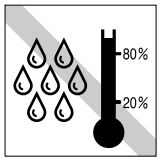
直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



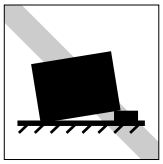
電源ケーブルが抜けやすい所(ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



湿度が高すぎる所や、湿度が低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

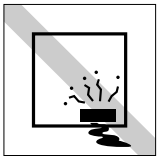


不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

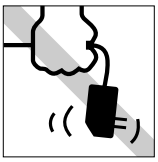
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



本製品を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、LCDやバックライトが割れることがあります。

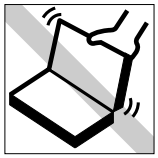
本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。



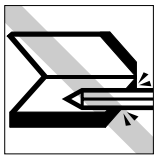
ACアダプタはケーブルを持って抜き差ししないでください。
ケーブルの断線や接触不良の原因となります。

コンピュータ・バッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

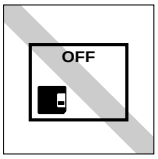
カバーを強く押さえないでください。カバーの中には、液晶ディスプレイ用の蛍光管があります。部分的に強く力を加えると、この蛍光管が破損することがあります。また、液晶ディスプレイのガラスが破損したり表示不良になることがあります。



本製品のカバー(液晶ディスプレイ)を開けた状態で、カバー部分を持って移動しないでください。



キーボードの上などに、物(ボールペンその他)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。



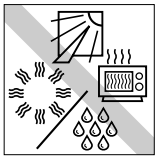
本製品を持ち運ぶときはFDを抜いてください。FDDイジェクトボタンに無理な力がかかり破損の原因になります。

記録メディア

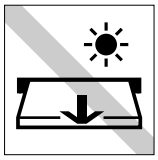
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD　FD
- CD-ROM　CD

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

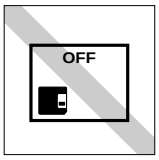


直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスLEDが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。

上に物を載せないでください。

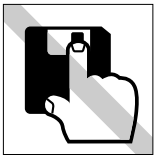


使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

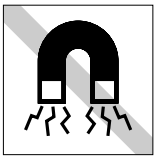
ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。**FD**

磁性面にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。**FD**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。**FD**

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。
FD

信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。**CD**

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。**CD**

信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないで下さい。**CD**

CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。**CD**

レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。**CD**

シールを貼らないでください。**CD**

コンピュータが届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方/切り方などについて説明しています。

ご使用の前に

ご使用の前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

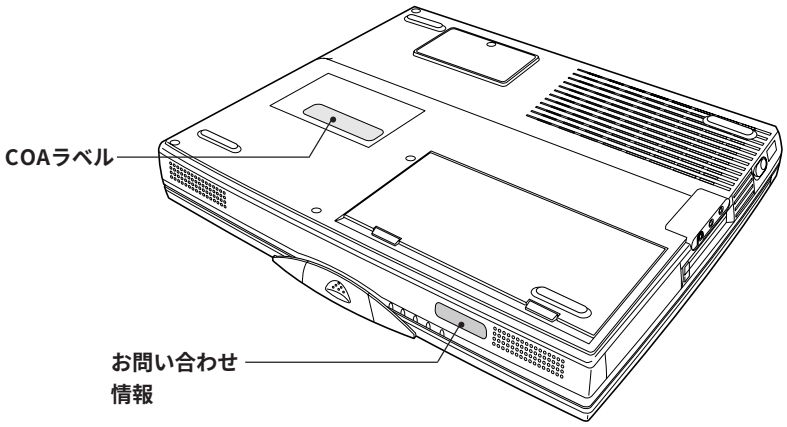
- **お問い合わせ情報**

  お問い合わせ情報には、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  製品のサポート・サービスについては、『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

- **COAラベル**

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）」は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認
『梱包品の確認』

まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。

↓

安全にお使いいただくために
表紙裏面

本製品を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。

↓

製品保護上の注意
(11)ページ

本製品を正しく取り扱っていただくための注意事項を確認します。必ずお読みください。

↓

ご使用の前に
2ページ

本製品を使用する前に必要な情報を確認します。

↓

各部の名称と働き
7ページ

本機の、各部の名称と働きを確認します。

↓

ハードウェアをセットアップしましょう
11ページ

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

↓

電源の入れ方とWindowsのセットアップ
15ページ

電源を入れ、Windowsを初めて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

↓

電源の切り方
22ページ

Windowsを終了し、本機の電源を切ります。

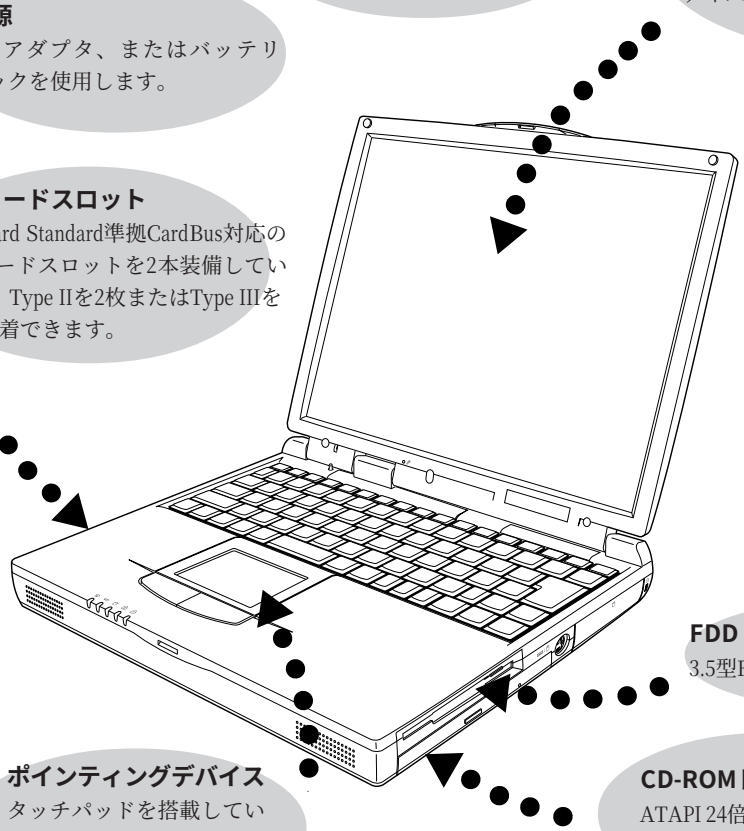
本機の特長

メモリ容量
メインボードに64MBを標準搭載しています。SODIMMを装着して、最大192MBまで増設が可能です。

CPU性能
Mobile Intel Celeronプロセッサを搭載しています。

表示装置
13.3型TFT XGAフルカラー 液晶ディスプレイを搭載しています。CRTディスプレイも接続できます。

電源
ACアダプタ、またはバッテリパックを使用します。



PCカードスロット
PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを2本装備しています。Type IIを2枚またはType IIIを1枚装着できます。

HDD
IDE対応HDDを内蔵しています。

FDD
3.5型FDDを内蔵しています。

ポインティングデバイス
タッチパッドを搭載しています。人差し指1本でマウスと同じ操作ができます。

CD-ROMドライブ
ATAPI 24倍速CD-ROMドライブを内蔵しています。

その他
- 高速赤外線通信ポートを装備しています。
- サウンド機能(SIS 630 Integrated AC'97)を搭載しています。
- モデム機能を搭載しています。
- ネットワーク機能を搭載しています。

オペレーティングシステム
Windows 98をインストール済みです。

添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。

記号の見方

〈インストール状態〉

: **内蔵HDDにインストールされています。**

: **インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。**

〈添付状態〉

: **ディスクが添付されています。**

Windows98インストールモデル

- **Windows98**
  Windowsは、最新のものがインストールされています。
  ☞『Windows98ファーストステップガイド』

- **タッチパッドドライバ**
  タッチパッドを使用するためのデバイスドライバです。

- **ディスプレイドライバ**
  Windowsを高解像度・多色で表示するためのデバイスドライバです。

- **サウンドドライバ**
  音を鳴らしたり、録音するためのデバイスドライバです。

- **ホットキーユーティリティ**
  ホットキーを割り当てるためのユーティリティです。

- **Save to Disk領域作成/削除ユーティリティ**
  省電力モードの休止状態を使用するためのSave to Disk領域を作成/削除するためのユーティティです。

- **FAXモデムドライバ**
  FAXモデム機能を使用するためのドライバです。

- **ネットワークドライバ**
  ネットワーク機能を使用するためのドライバです。

- **VirusScan for Windows**
  最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。
  ☞『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』

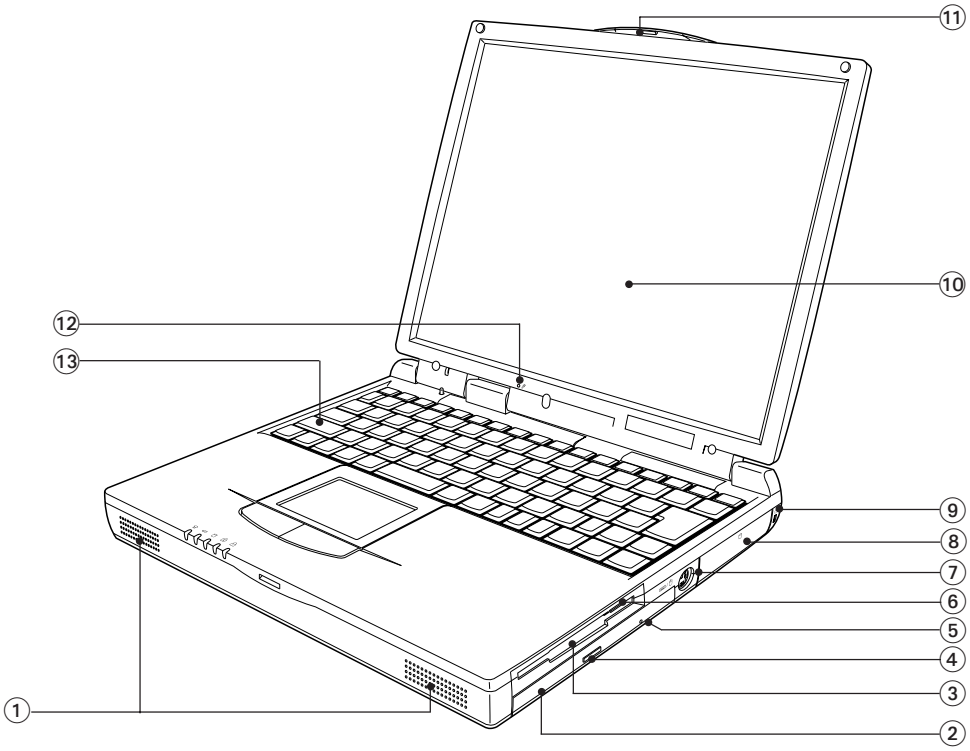
- **Adobe Acrobat Reader**
  様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。

- **マニュアル(PDFファイル)**
  『ユーザーズマニュアル』(本書)が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。

- **ATコマンドリファレンス(PDFファイル)**
  FAXモデム機能で使う、ATコマンドのリファレンスです。

各部の名称と働き

正面・右側面



① **内蔵ステレオスピーカ**
警告音や音声などを鳴らします。

② **CD-ROMドライブ**
24倍速CD-ROMドライブが内蔵されています。

③ **3.5型FDD**
3.5型FDの読み出し、書き込みを行います。

④ **CD-ROM イジェクトボタン**
ディスクトレイの開閉を行います。

⑤ **CD-ROM イジェクトホール**
ディスクトレイが開かなくなったときに使用します。

⑥ **FDDイジェクトボタン**
FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

⑦ **キーボード/マウスコネクタ**
PS/2の外付けキーボードやマウスを接続します。

⑧ **HDD**
内蔵HDDパックが装着されています。

⑨ **ケンジントンロック**
ケンジントン社製セキュリティキーを差し込みます(盗難防止用)。

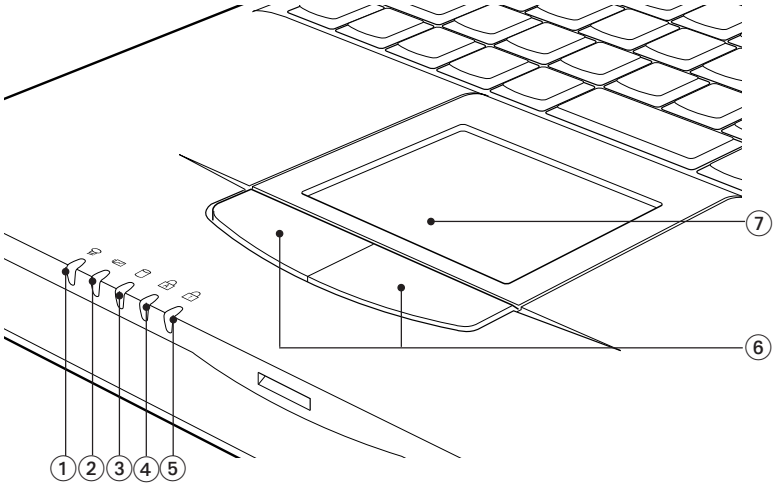
⑩ **LCD画面**
入力した文字や作業内容を表示します。

⑪ **LCDラッチ**
LCDユニットを閉じたときに固定します。

⑫ **内蔵マイク**
音声をコンピュータに取り込むときに使用します。

⑬ **キーボード**
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

タッチパッド
ステータスLED



① **電源LED**

電源状態を示します。

緑点灯	通常モードおよびHDD/ディスプレイ電源切断時
緑点滅	スタンバイモード
消　灯	電源切断時および休止状態

② **バッテリ充電LED**

バッテリの充電状態を示します。

橙点滅	充電が必要な状態
橙点灯	充電中
消　灯	満充電状態

③ **アクセスLED**

FDD、HDDおよびCD-ROMドライブにアクセス中に緑色に点灯します。

④ **NumLock LED**

NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

⑤ **Caps Lock LED**

Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、Shiftキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

⑥ **クリックボタン**

マウスの左右ボタンに相当します。

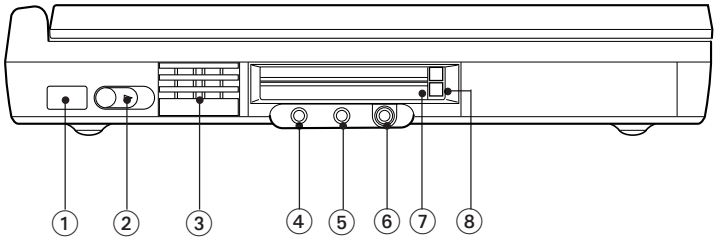
⑦ **タッチパッド**

指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

制限

アクセスLEDが点灯しているときは、FDD、HDDまたはCD-ROMドライブにアクセス中です。コンピュータの電源を切ったり、リセットしたり、メディアを取り出さないでください。データが壊れるおそれがあります。

左側面



① **赤外線ポート**
赤外線通信を行うときに赤外線の送受信を行います。

② **電源スイッチ**
コンピュータの電源の入/切を行います。また、スタンバイモードや休止状態からの復帰に使用することもできます。

③ **排気口**
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

④ **ライン入力コネクタ**
カセットデッキなどのオーディオ機器のライン出力端子と接続します。

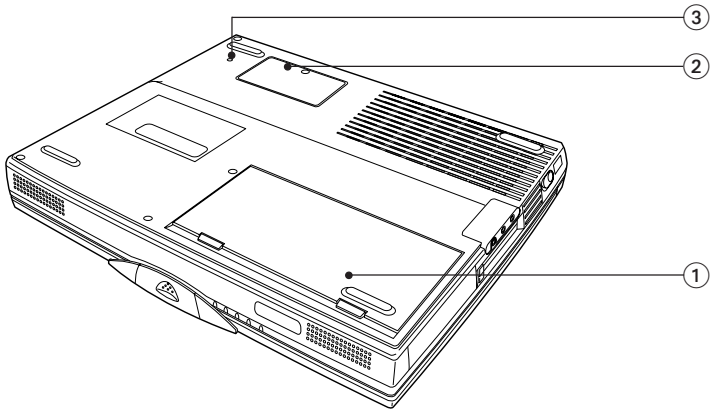
⑤ **マイク入力コネクタ**
マイクを接続します。

⑥ **ヘッドフォン出力コネクタ**
ヘッドフォンやスピーカを接続します。

⑦ **PCカードスロット**
PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

⑧ **PCカードイジェクトボタン**
PCカードを取り出すときに押します。

底面

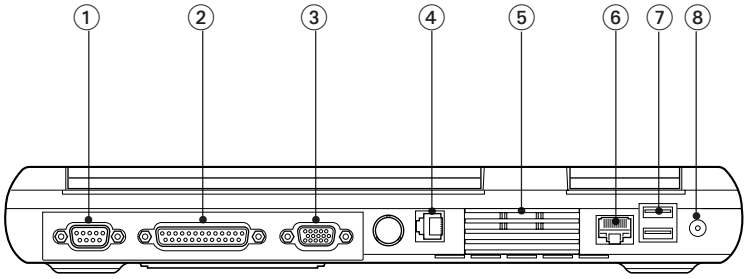


① **バッテリパック**
バッテリパックが装着されています。

② **メモリスロット**
メモリスロットカバーを開け、拡張メモリモジュール(SODIMM)を装着することができます。

③ **リセットホール**
コンピュータのリセットを行います。

背面



① **シリアルコネクタ 1**
モデムなどRS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

② **パラレルコネクタ**
プリンタやスキャナなどを接続します。

③ **VGAコネクタ**
CRTディスプレイなど外付けディスプレイを接続します。

④ **モデムコネクタ**
電話回線と接続します。

⑤ **排気口**
コンピュータ内部で発生する熱を逃します。

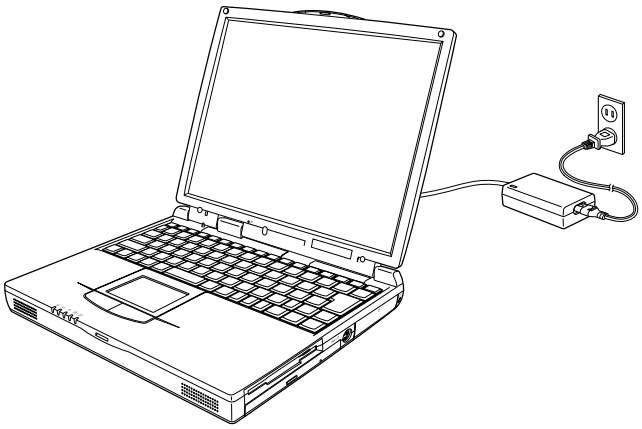
⑥ **LANコネクタ**
ネットワークを接続します。

⑦ **USBコネクタ**
USB対応機器を接続します。

⑧ **ACアダプタコネクタ DC IN**
付属のACアダプタを接続します。

ハードウェアをセットアップしましょう

本製品を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に、周辺機器のマニュアルを参照して、接続とセットアップを行ってください。



設置における注意

注意

- **本機をひざの上に置いて使用しないでください。本機底面の通風孔がふさがることで内部に熱がこもり、熱によるやけどの危険があります。**
- **不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがをする危険があります。**
- **本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。**
  - **・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところ。**
  - **・ 絨毯や布団の上。**
  - **・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。**

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

- **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。**
- **電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。**
- **電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。**
  - **・ 電源プラグは、ほこりなどの異物が付着したまま差し込まない。**
  - **・ 電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。**

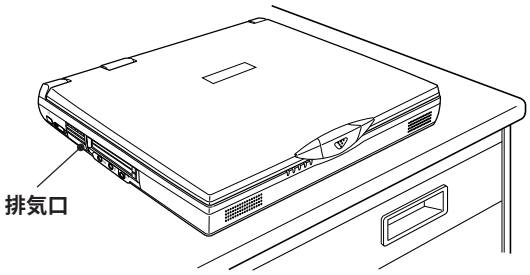
注意

- **各コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。**
- **ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調整が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となる恐れがあります。**

設置する

1 コンピュータを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。

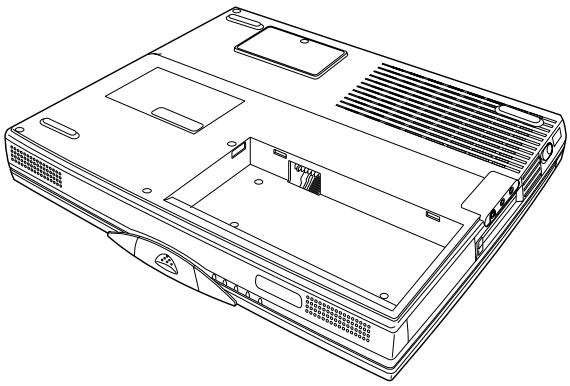
左側の排気口をふさがないようにしてください。



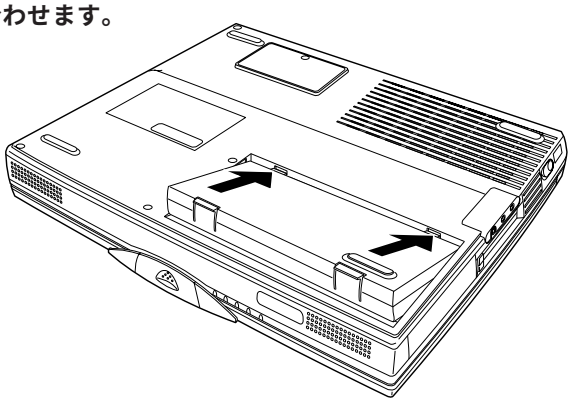
バッテリパックを装着する

2 バッテリパックを装着します。

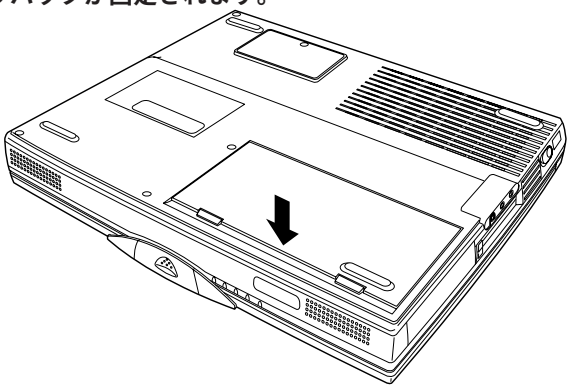
❶ コンピュータの底面部を上にして置きます。



❷ バッテリパックのツメをバッテリパックベイの切り欠きの位置に合わせます。



❸ **カチッと音がするまで、バッテリパックを押し込みます。バッテリパックが固定されます。**



本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、購入時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

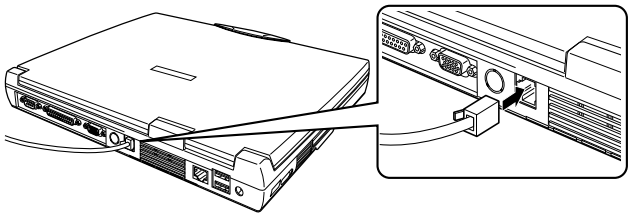
☞ p.26「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

電話回線へ接続する

3 屋内配線のモジュラコネクタと本体背面のモデムコネクタを付属のモジュラケーブルで接続します。

使用している回線や電話機によっては接続ができない場合があります。

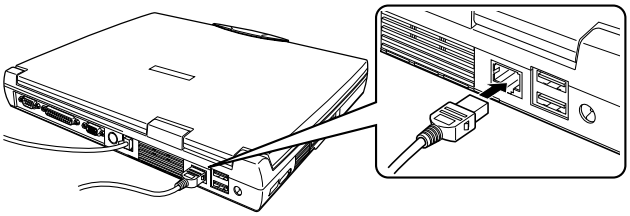
☞ p.76「FAXモデムを使う」



ネットワークへ接続する

4 ネットワークケーブルを本体背面のLANコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

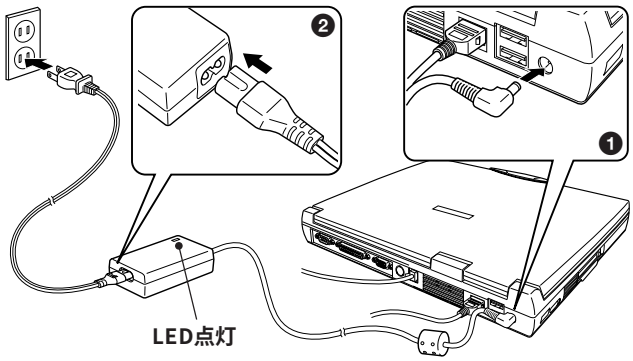


ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

5 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

❶ **ACアダプタのプラグ部を本体背面のACアダプタコネクタ DC INに接続します。**
❷ **電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。**

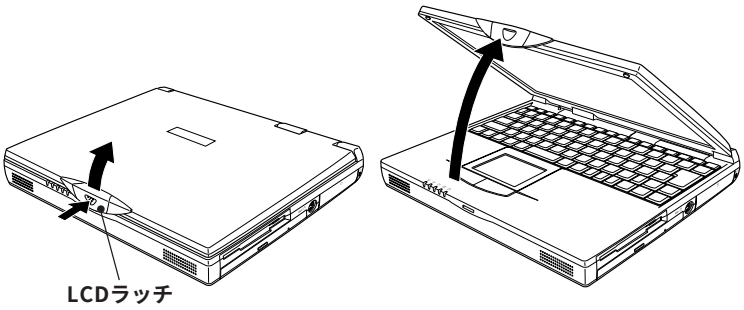


ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリパックをセットした状態で使ってください。

LCDユニットを開ける

6 前面のLCDラッチを矢印方向に押しながら、LCDユニットを開けます。

LCDユニットは見やすい角度に調節してください。



これでハードウェアのセットアップは終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindows98のセットアップについて説明します。

電源を入れる前に

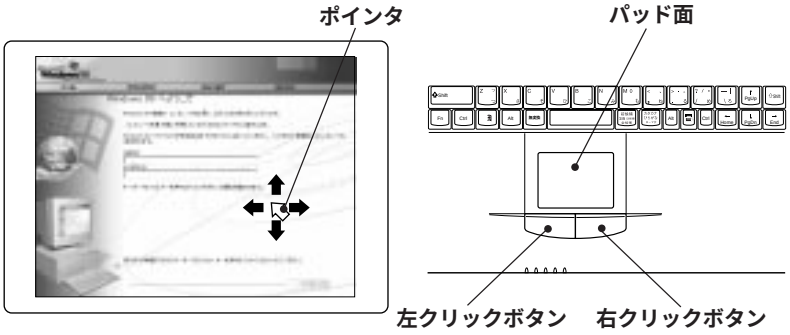
Windowsのセットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windows98が起動後、自動的に「**Windows98セットアップ**」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

タッチパッドの使い方

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。Windows98のセットアップは、タッチパッド操作で行います。セットアップの作業で必要なタッチパッドの基本操作を説明します。

1 **Windows98の画面では、次のようにポインタが表示されます。タッチパッドのパッド面で前後左右に動かすと、動かした方向にポインタが移動します。**



2 **画面に操作を選択するボタンが表示されています。**

これから行いたい操作のボタン上にポインタの先端を合わせます。ポインタを合わせたらタッチパッドの左クリックボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで、操作が選択され、実行します。以降このように左クリックボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

☞ p.36「タッチパッドを使う」

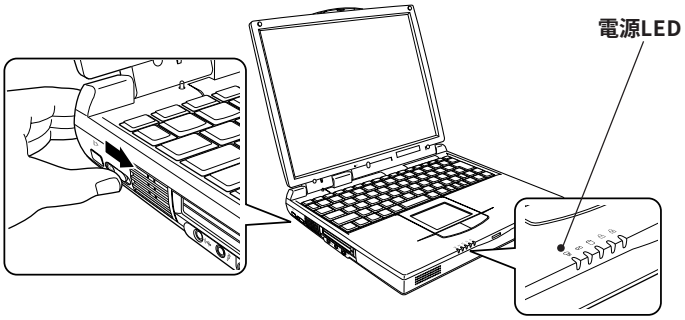
電源の入れ方とWindowsの起動

本体の電源の入れ方は、次のとおりです。

初めて電源を入れる

1 **電源スイッチを矢印方向に押し、本体の電源を入れます。電源LEDが点灯します。**

電源を入れたときに電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。



2 **画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

購入後初めて電源を入れたときはWindows98のセットアップを行います。

p.17「Windows98のセットアップ」

次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　　LCDユニットを前後に動かします。
- 画面の明るさ　Fn + F5 (☼)：明るくなります。
  Fn + F6 (✷)：暗くなります。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意しましょう。
  p.91「省電力機能を使う」
- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

Windows98インストールモデルのセットアップ

本章では、Windows98インストールモデルのセットアップ方法について説明します。
このセットアップでは、お使いになるお客様の情報収集などを行います。

Windows98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

ようこそ

↓ 日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

Windows98へようこそ

↓ ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
※名前を入力後 Tab を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

モデムを使って接続する

↓ ここではFAXモデムの接続を行いませんので［スキップ］を選択します。

Windowsユーザー使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

セットアップの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。［完了］をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定

「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。設定したら［閉じる］をクリックします。設定を変更する場合は、日本語入力システムをオフにした状態で行ってください。

お知らせの確認

本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。すべて読み終わったら［OK］をクリックします。

2 **Windows98のデスクトップが表示されます。これでWindows98のセットアップは終了です。**

続けて「セットアップ終了後の作業」を行います。

☞次ページ「セットアップ終了後の作業」

セットアップ終了後の作業

Windows98セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、Windows98がHDDから起動しなくなった場合などに使用します。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意しておきます。

☞p.50「FDのフォーマット」

1 **「コントロールパネル」―「アプリケーションの追加と削除」―「起動ディスク」タブをクリックします。**

2 **FDDにFDをセットして、[ディスクの作成]をクリックします。**

3 **画面の指示に従って、2枚の起動ディスクを作成します。**

4 **「Windows98起動ディスク1」、「Windows98起動ディスク2」と書いたラベルをそれぞれ貼り、ライトプロテクトをして保管します。**

☞p.51「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用してインターネットに接続する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

FAXモデムの設定

FAXモデム機能を使用してインターネットに接続する場合は、インターネットへの接続が行えるようFAXモデムの設定を行います。

☞p.78「インターネットに接続するには」

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、「VirusScan for Windows」がインストールされていません。「VirusScan for Windows」をインストールします。

☞p.151「VirusScan for Windowsのインストール」

ホットキーユーティリティのインストール

本機のHDDには、「ホットキーユーティリティ」がインストールされていません。「ホットキーユーティリティ」をお使いになる場合は、「ホットキーユーティリティ」をインストールします。

☞p.44「ホットキーを設定する」

Windows使用時の確認事項

セットアップ作業が終了するとWindowsが使用できる状態になります。また、次回より電源を入れると起動後すぐにWindowsが使用できるようになります。Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『ファーストステップガイド』や「Windowsのヘルプ」をご覧ください。Windows使用時の確認事項や設定事項は、次のとおりです。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、次のように音量を調節します。

● **キーボード操作**

次のキーを押して、音量を調節できます。

Fn + F10	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。
Fn + F11	スピーカの音量を大きくします。
Fn + F12	スピーカの音量を小さくします。

● **スピーカアイコン**

画面右下のタスクバーに表示されているスピーカアイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。

ボリュームコントロール

省電力機能

本機では一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、タッチパッドやキーボードの操作でもとに戻ります。

☞p.91「省電力機能を使う」

電源ランプの表示

コンピュータの動作状態は、電源ランプによって確認することができます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード、HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイモード	緑点滅
休止状態、電源切断時	消　灯

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD-ROM」をセットせずに、**「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」**のフォルダ名を指定してください。
「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」フォルダは、購入時には、Cドライブに保存されています。
このフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは、すべての領域(Cドライブ)をFAT32ファイルシステムで設定しています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98	すべての領域（C ドライブ）	FAT 32

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

制限

- **電源を1度切ってからもう1度入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。**
- **アクセスLED点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。**
- **本機は電源を切っても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていたりすると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。**

Windows98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

1. **[スタート]－「Windowsの終了」をクリックします。**
2. **「Windowsの終了」画面で「電源を切れる状態にする」を選択し、[OK]をクリックします。**
3. **Windows98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。**
4. **接続している周辺機器の電源を切ります。**

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「**リセット**」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- プログラムがハングアップ(キーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。
ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsのリセット方法

[スタート]—「Windowsの終了」で、「再起動する」を選択して[OK]をクリックします。

リセットできないときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl+Alt+Delete を押してリセットする

↓ コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す

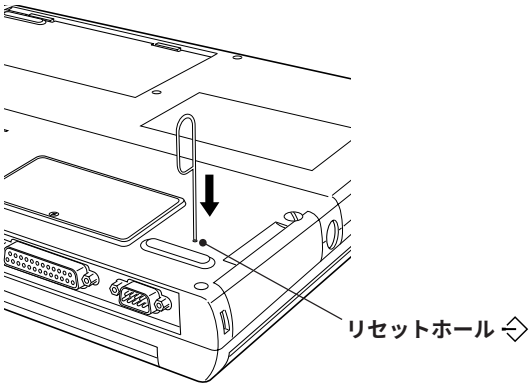
↓ コンピュータの電源が切れないときは

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールでのリセット

本体底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホールに丈夫な先の細いもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。
リセットホールは、プログラムがハングアップして Ctrl + Alt + Delete を押してもリセットできないとき以外は使用しないでください。



使ってみましょう

本製品の各部の名称や使い方について
説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機は、ACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

警告

- **ACアダプタや、バッテリパックを分解しないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。**
- **バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。**
- **バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。**

注意

- **連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
- **ACアダプタやバッテリパックは、指定のコンピュータ以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。**
- **コンピュータ本体をひざの上で使用しないでください。バッテリパックの熱で本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。**
- **バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。火傷や、科学物質による被害の原因となります。**

制限

- **ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。**
- **バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、コンピュータ動作中は、ACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。**
- **ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。**

ACアダプタの接続方法は、p.11「ハードウェアをセットアップしましょう」をご覧ください。

バッテリパックを使う

バッテリパック(以降バッテリ)は、着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や停電時にも本機を使用することができます。本機では、ニッケル水素バッテリを使用します。

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は、次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間	連続約1.5時間(満充電の場合)

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力機能の使用やバックライトの明るさの調整などで消費電力を抑えると使用可能時間を延ばすことができます。

☞ p.91「省電力機能を使う」
☞ p.65「LCDユニット」

バッテリ使用時の注意

- スタンバイモードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。スタンバイモードに入っているときも電力が消費されています。
  ☞ p.91「省電力機能を使う」
- バッテリは、本機の電源を切っているときでも自然放電によって電力が消費されています。長期間使用しない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで使用するときは、必ず充電してから使用してください。
- バッテリは、温度が10〜30℃で使用すると性能が向上し、使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは10〜30℃の温度範囲の場所でしばらく放置してから使用することをおすすめします。

バッテリ残量の確認

本機では、バッテリ残量の確認を次の2通りの方法で行うことができます。ただし、バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

☞ p.32「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

● タスクバーの「バッテリ」アイコンにポインタを合わせる。

●「コントロールパネル」－「電源の管理」－「電源メーター」タブを実行する。

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

残量が少なくなると、本機は次のように通知(警告)します。ただちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン(電源切断)してしまうと、保存されていないデータはすべて失われます。

バッテリ残量が約10%*になるとバッテリ充電LED(⊏⊐)が点滅し、バッテリ低下メッセージが表示されます。

そのまま放置すると、残量約3%*でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード中も電力を消費しています。

* **この設定は、次ページの「バッテリアラームの設定」で変更することができます。**

対処方法

バッテリ残量の低下が通知されたら、ただちに次のいずれかの処置を行ってください。

- **ACアダプタを接続する**
  電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電LED(⊏⊐)が点灯します。
- **電源を切る**
  作業中のデータをHDDやFDに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

制限

ACアダプタを接続しない場合は、ただちに作業中のデータを保存してください。シャットダウンしてしまうと、保存されていないデータは全て失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を変更できます。
「コントロールパネル」―「電源の管理」―「アラーム」タブで行います。

バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量を設定します。

クリックすると「バッテリ残量低下のアラームの動作」画面が表示されます。

バッテリ切れを通知するバッテリ残量を設定します。

クリックすると「バッテリ切れのアラームの動作」画面が表示されます。

〈バッテリ残量低下のアラームの動作画面〉

クリックして、通知後のコンピュータ動作を選択します。

☞ p.91「省電力機能を使う」

バッテリの充電

バッテリが満充電でない場合、ACアダプタが接続されていれば、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電LED(⊏⊐)の表示は、次のとおりです。

充電状態	LEDの表示
充電が必要な場合	橙点滅
充電中	橙点灯
満充電状態	消灯

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	充電時間
電源切断時/スタンバイモード	約1.5時間
電源が入っている状態	約4.5時間(使用状態により差があります)

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率よく充電ができます。

充電後の処理

バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は、安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下したり、バッテリ充電LEDがすぐに点滅(要充電)するような場合は、次の手順を数回繰り返してみてください。

1 **ACアダプタが接続されていることを確認します。**

2 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**
p.109「BIOS Setupユーティリティの操作」

3 **「Powerメニュー画面」—「Start Battery Refreshing」を選択して[↵]を押します。**

4 **「Battery Refresh utility…」と表示されます。[↵]を押します。**

5 **「…Please wait while the battery is charging…」と表示されます。バッテリが満充電になるまで放置します。**
途中で中止したい場合は、電源スイッチを5秒以上押してコンピュータの電源を切ります。

6 **バッテリが満充電状態になると「Please Remove AC adaptor and wait the machine shutdown!!」と表示されます。ACアダプタを抜きます。完全放電してコンピュータの電源が切れるまで放置します。**

7 **ACアダプタを接続し、満充電にします。**

バッテリの寿命

バッテリは、消耗品です。次の場合は、バッテリの寿命が考えられます。新しいバッテリに交換してください。

- 上記の操作を数回繰り返し行っても、バッテリ容量がすぐに低下する。
- バッテリ充電LEDが早い点滅をする。

参考

バッテリの寿命を長くするために

本機のバッテリは、ニッケル水素バッテリを使用しています。ニッケル水素バッテリの特性上、浅い充電、放電を繰り返すとバッテリの寿命が短くなります。バッテリの使い初めより、上記手順で満充電と完全放電を数回繰り返して使用することにより、バッテリの寿命を長くすることができます。

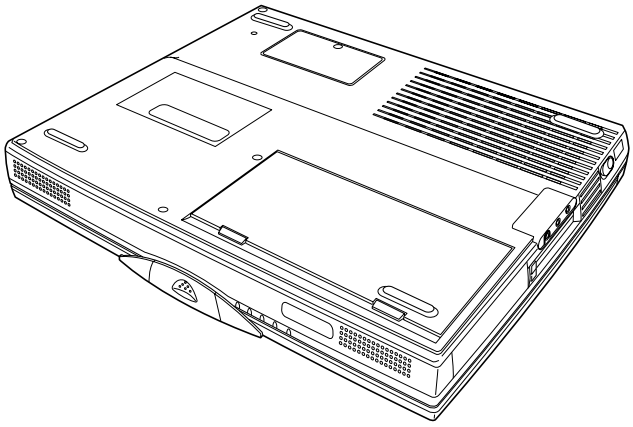
バッテリの交換

バッテリを複数使用して長時間使用する場合や、バッテリが寿命の場合は、バッテリを交換します。

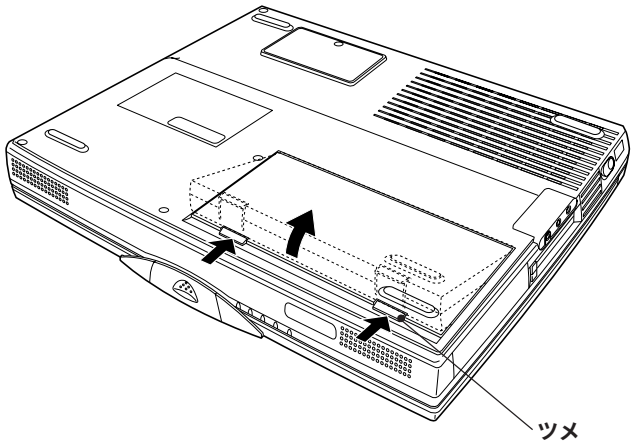
バッテリの交換は、次の手順で行います。

1 **コンピュータの電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

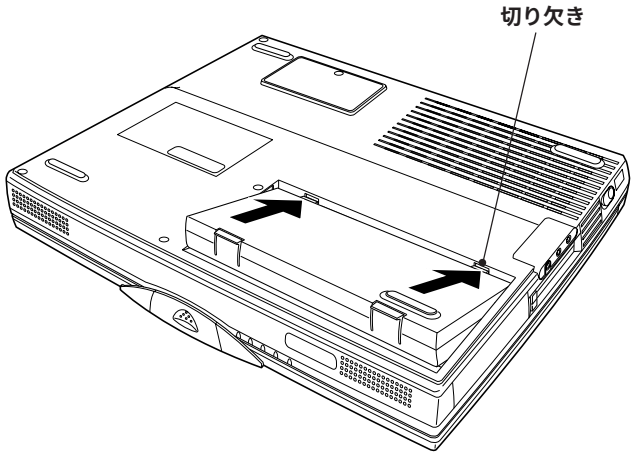
2 **コンピュータの底面部を上にして置きます。**



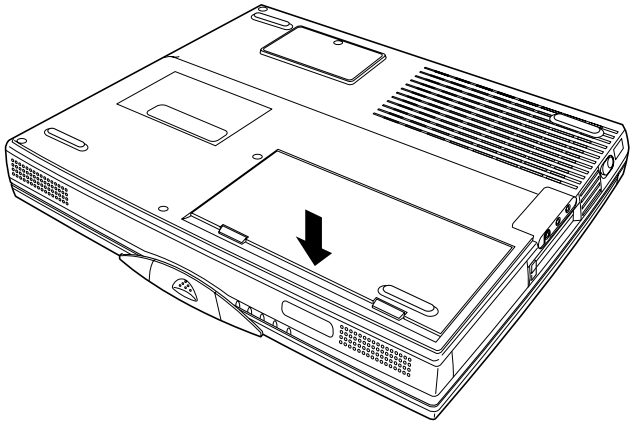
3 **バッテリの 2 つのツメを押しながら持ち上げて外します。**



4 新しいバッテリのツメをバッテリパックベイの切り欠きの位置に合わせます。



5 カチッと音がするまで、バッテリを押し込みます。バッテリが固定されます。



制限

不要となったバッテリを燃やしたり、埋めたり、一般ゴミと混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。バッテリは回収業者に依頼するか、自治体の条例または規制に従って適切に処分してください。

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く場所にバッテリを保管しないでください。なめたりすると火傷や、科学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、必ずコンピュータ本体から取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。
保管時はバッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。

タッチパッドを使う

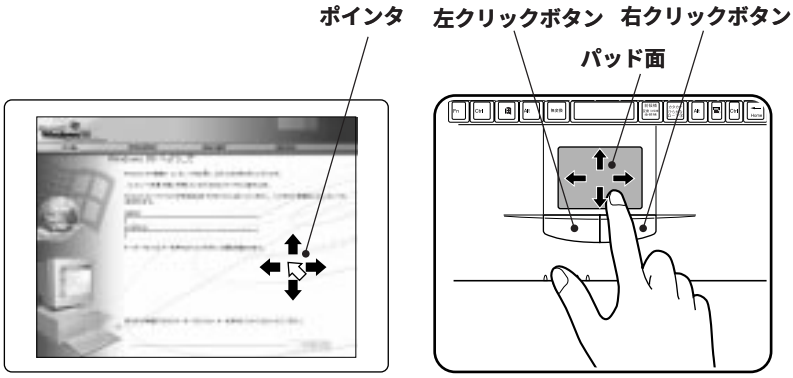
本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

タッチパッドの操作

タッチパッドは、パッド面と2つのクリックボタンから構成されています。
パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、マウスの左ボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより、左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。
タッチパッドは、次のように操作します。

ポインタの移動

人指し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

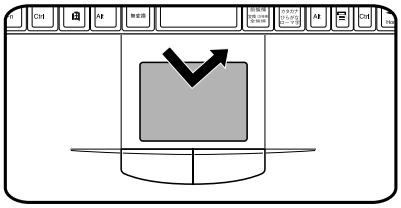


制限

- **パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。**
- **パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作するとポインタが正常に動作しません。**
- **手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。**
- **キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。**
- **起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。**
- **電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、ポインタが正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。**

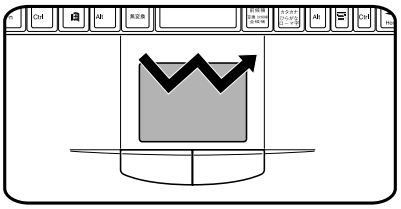
クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。
マウスの左ボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



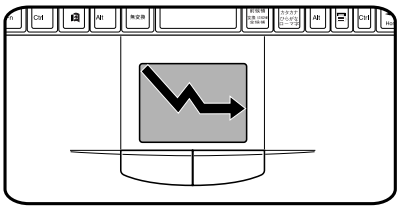
ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。
マウスの左ボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
マウスの左ボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



タッチパッドドライバ&ユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種の設定を行うとタッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドドライバ&ユーティリティは、購入時にインストールされています。

タッチパッドユーティリティは、「コントロールパネル」―「マウス」で実行します。

設定内容の概要

「マウスのプロパティ」の各タブでは、次のような設定ができます。

タブ	設定できる内容
ボタン	ダブルクリックの速度設定など
ポインタ	ポインタのデザインなど
動作	ポインタの速度や軌跡の有無など
タッチ	複数回タップの機能やタッチの強さなど
エッジモーション	エッジモーション(エッジを押したとき)の機能や速度設定など
スクロール	スクロール機能や速度など
タップゾーン	タップゾーン(タッチパッドの4隅)をタップしたときの機能や特許通知など
ボタンの動作	左右ボタンの動作選択など
その他の機能	ポインタの動作や速度

詳しい設定の方法は、タッチパッドユーティリティのオンラインヘルプをご覧ください。

マウスの接続

本体右側面のキーボード/マウスコネクタ(⌨/🖱)にPS/2マウスを接続できます。PS/2マウスの接続は、本機の電源が入っていない状態で行ってください。
PS/2マウスと、タッチパッドは同時に使用できません。
☞『ホイール付きPS/2マウス取扱説明書』

マウス接続時の注意

本機にPS/2マウスを接続する際、コア付きコネクタなど、コネクタ径が大きいものを接続すると、CD-ROMドライブのディスクトレイがコネクタ部にあたって、開閉できない場合があります。本機でPS/2マウスを使用するときは、コネクタ径の小さいものを使用することをおすすめします。

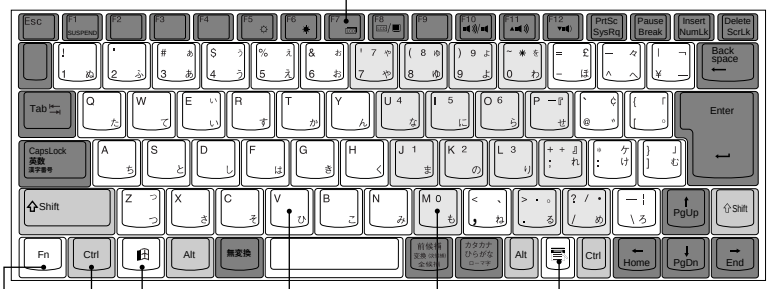
キーボードを使う

本機のキーボードは、OADG準拠日本語対応87キーボードです。

キーの種類と役割

入力キー

87個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく6つのグループに分けられます。



機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

数値キー

文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します。Fn＋Num Lockキーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに燈色で印字されている機能キーの機能は、Fnキーと組み合わせて実行します。

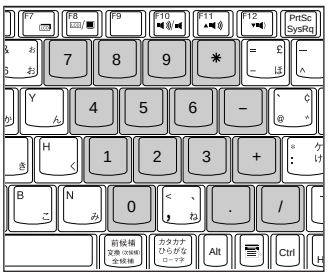
キーの組み合わせ	機　能
Fn + F1 SUSPEND	省電力モードに移行します。購入時の状態では、スタンバイモードに移行します。☞p.91「省電力機能を使う」
Fn + F5 (☼)	LCD画面を明るくします。☞p.65「LCDユニット」
Fn + F6 (✷)	LCD画面を暗くします。☞p.65「LCDユニット」
Fn + F7 LCD	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。☞p.65「LCDユニット」
Fn + F8 LCD/■	表示装置を[シングルモード](LCD画面のみ表示)－[シングルモード](CRT画面のみ表示)－[ミラーモード](LCDとCRTに表示)の順に切り替えます。☞p.66「CRTディスプレイ」
Fn + F10 🔈))/🔈	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。
Fn + F11 ▲🔈))	スピーカ音声のボリュームを大きくします。
Fn + F12 ▼🔈)	スピーカ音声のボリュームを小さくします。

「ホットキーユーティリティ」を使用すると、ほかのキーにも機能を割り付けることができます。☞p.44「ホットキーを設定する」

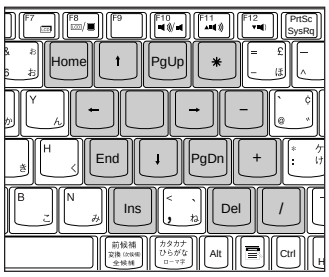
数値キーモード

Fn + Num Lockを押すと、NumLock LED 🔒 が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらにShiftを押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード



Shiftを押したとき



アルファベット入力モード

Shift + Caps Lockを押すと、CapsLock LED 🔒 が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。小文字で入力するにはShiftを押しながら入力します。

日本語の入力

ひらがなや漢字などの日本語の入力や￡、¢、¬などの特殊の記号の入力には、日本語入力システムを使用します。本機では、Windowsに添付のMS-IMEを使用しています。
日本語や特殊記号の詳しい入力方法は、『ファーストステップガイド』または「MS-IMEのオンラインヘルプ」をご覧ください。

記号の入力

インターネットでURLやメールアドレスを入力する際に頻繁に使う記号は、次のキーを押して入力します。（日本語入力システムをオフにした状態）

入力記号	入力方法
:（コロン）	＊ ケ ： け
;（セミコロン）	＋ ♪ ： れ
-（ハイフン）	＝ ￡ － ほ
/（スラッシュ）	？ ・ ／ め
@（アットマーク）	｀ ｃ ＠ ゛
~（チルダ）	⇧ Shift ＋ ー タ ＾ へ
_（アンダーバー）	⇧ Shift ＋ ー ！ ＼ ろ

Windowsキーと組み合わせて使うキー

2つのWindowsキーは、次の働きをします。

Windowsキー	機　能
[⊞]	画面左下の［スタート］をクリックするのと同じ働きをします。
[▤↖]	マウスの右ボタン、タッチパッドの右クリックボタンをクリックするのと同じ働きをします。

Windowsキーと他のキーを組み合わせて使うことにより、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機　能
[⊞]+[F1]	Windowsのヘルプが表示されます。
[⊞]+[E]	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
[⊞]+[F]	「検索：条件＝すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[Ctrl]+[F]	「検索：コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[M]	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
[Shift]+[⊞]+[M]	最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。
[⊞]+[R]	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
[⊞]+[Tab]	タスクバーに表示されているボタン（アプリケーションやファイル）の選択を切り替えます。

外付けキーボードの接続

本体右側面のキーボード/マウスコネクタ（⌨／🖱）に、PS/2互換のフルキーボードを接続することができます。接続は、本機の電源が入っていない状態で行ってください。

キーボード接続時の注意

本機にキーボードを接続する際、コア付きコネクタなど、コネクタ径が大きいものを接続すると、CD-ROMドライブのディスクトレイがコネクタ部にあたって、開閉できない場合があります。本機でキーボードを使用するときは、コネクタ径の小さいものを使用することをおすすめします。

ホットキーを設定する

ホットキーユーティリティを使用すると、制御キーと組み合わせたキーに「プログラムを起動する」、「Windowsを終了させる」などの機能を割り付けることができます。ホットキーユーティリティは、購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

ホットキーユーティリティのインストール

ホットキーユーティリティのインストールは、次の方法で行います。必要に応じてインストールを行ってください。

1 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

2 **[スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

3 **「名前」に「D:\HOTKEY\SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。**
（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

4 **「Welcome」画面で[Next]をクリックします。**

5 **「Choose Destination Location」画面で[Next]をクリックします。**

6 **「Select Program Folder」画面で[Next]をクリックします。**

7 **「Setup Complete」画面で[Finish]をクリックします。**
これでホットキーユーティリティのインストールは終了です。

8 **「NOTE－メモ帳」画面が表示されます。画面右上の☒をクリックして閉じます。**

ホットキーユーティリティの起動

画面右下のタスクバーの「ホットキー」アイコンをクリックすると、ホットキー設定画面が表示されます。

● **タスクバーに「ホットキー」アイコンが表示されていないときは**
［スタート］－「プログラム」－「EPSON Hotkey」－「EPSON Hotkey」をクリックして、「ホットキー」アイコンをタスクバーに表示させます。

タスクバーに「ホットキー」アイコンが表示されていないときは、設定したホットキーを使用することはできません。

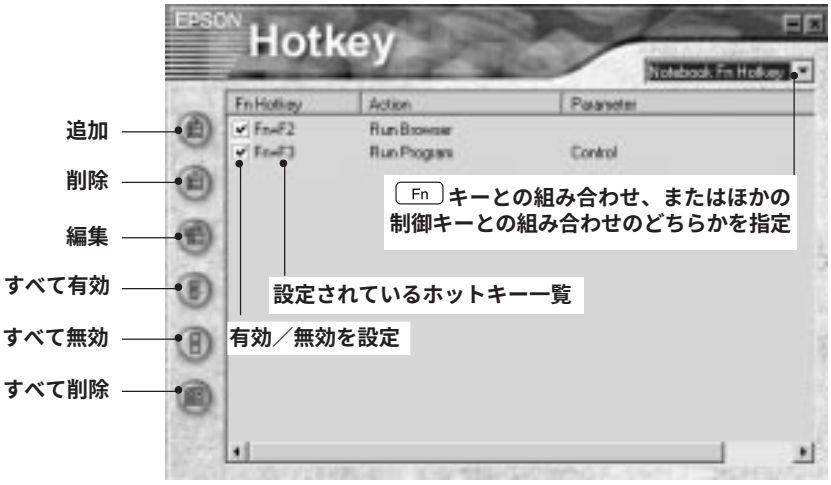
ホットキーユーティリティの収納と終了

ホットキーユーティリティをタスクバーへ収納するときは、ホットキー設定画面右上の ⊟ をクリックします。タスクバーにアイコンが収納されます。

ホットキーを使用しない場合は、ホットキー設定画面右上の ☒ をクリックします。このときタスクバーからも「ホットキー」アイコンが削除されます。

ホットキー設定画面

ホットキー設定画面の各機能は、次のとおりです。



Fn キーとの組み合わせでは、次の組み合わせが初期値で設定されています。

Fn ＋ F2 ： インターネットエクスプローラの起動。

Fn ＋ F3 ： コントロールパネルを開く。

制限

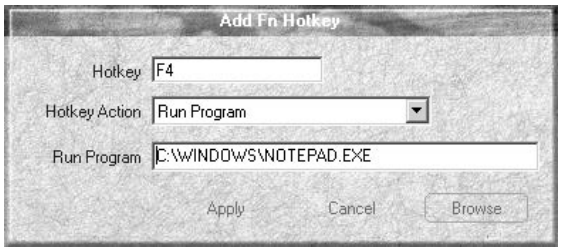
- いくつかのキーの組み合わせは、Windowsやアプリケーションソフトですでに機能が割り付けられています。ホットキーを設定する前に、機能が割り付けられていないことを確認してください。
- 次の組み合わせでホットキーを設定しないでください。設定すると、ホットキーが正常に動作しません。
  - Fn + F1
  - Fn + F5
  - Fn + F6
  - Fn + F7
  - Fn + F8
  - Fn + F9
  - Fn + F10
  - Fn + F11
  - Fn + F12

追加または編集するには

ホットキーの追加・編集は、次の手順で行います。ここでは、Fn キーと組み合わせたホットキーを登録する方法を説明します。

1 ホットキー設定画面で[追加]ボタンをクリック、または編集するホットキーを選択してから[編集]ボタンをクリックします。

2 「Hotkey」欄でカーソルが点滅している状態で、登録したいキーを直接押します。
この画面では、F4 キーを選択しています。Fn キーを押す必要はありません。



3 「Hotkey Action」から機能を選択します。
上の画面では「プログラムを起動」を選択しています。

4 「プログラムを起動」を選択した場合は[Browse]をクリックして、起動させたいプログラムの場所を指定します。
上の画面では、「C:\WINDOWS\NOTEPAD.EXE」を選択しています。

5 [Apply]をクリックするとホットキーが設定されて、一覧に表示されます。

削除するには

ホットキーの削除は、次の手順で行います。

1 **[すべて削除]ボタンをクリック、または削除するホットキーを選択してから[削除]ボタンをクリックします。**

2 **確認の画面が表示されたら、[OK]をクリックします。選択したホットキーが一覧から削除されます。**

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用可能です。

- 3.5型2HD　　：1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　　：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

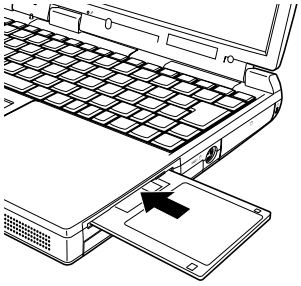
FDのセットと取り出し

- アクセスLED点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。
- コンピュータの電源を切る場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。

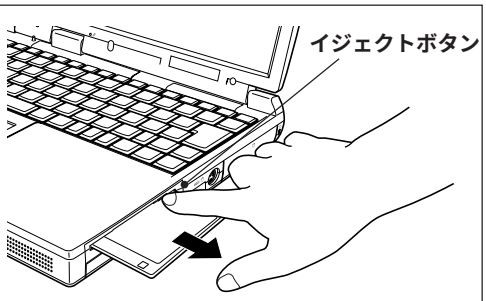
2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



取り出し方法

1 アクセスLEDが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



コンピュータ持ち運び時の注意

本製品を持ち運ぶときは、FDを抜いてください。
FDがFDDにセットされていると、イジェクトボタンが本体よりも突き出ています。この状態のまま本体をバッグなどに入れて持ち運ぶと、イジェクトボタンに無理な力がかかり、故障する恐れがあります。

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。
メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

1. **「マイコンピュータ」をダブルクリックします。**
2. **「3.5インチFD」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。**
3. **フォーマットの種類などを設定して［開始］をクリックします。「警告」が表示された場合は［OK］をクリックします。**
4. **「フォーマット結果」が表示されたら［閉じる］をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4をくり返します。**
5. **［閉じる］をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。**

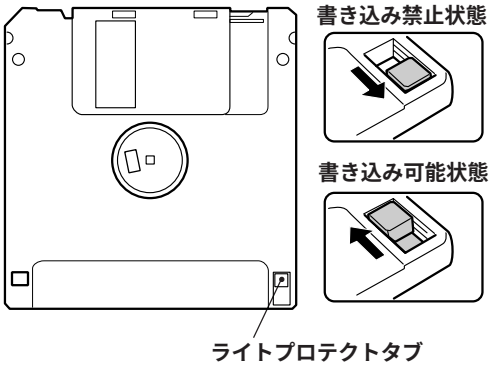
データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成（バックアップ）しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。

- **窓が開いているとライトプロテクト状態です。**
- **窓が閉じているとデータを書き込むことができます。**



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。

●誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

・HDDを分解しないでください。

・アクセスLED点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスLED点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

● HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

● 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

HDDのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

- 重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
- 専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。

HDDのフォーマット

HDDを最初に使用する場合にはフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されている内蔵HDDにはソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。

p.162「MS-DOS領域のフォーマット」

制限

すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

参考

購入時のHDD領域について

本機のHDD領域は、出荷時に「FAT32ファイルシステム」で設定されています。

CD-ROMドライブを使う

本機の右側面には、CD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブは、データの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

制限

- **本機に装着されているCD-ROMドライブは、メディアの認識に時間がかかることがありますが、不具合ではありません。**
- **メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。**

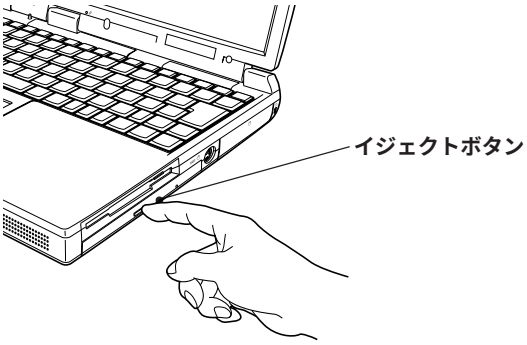
メディアのセットと取り出し

制限

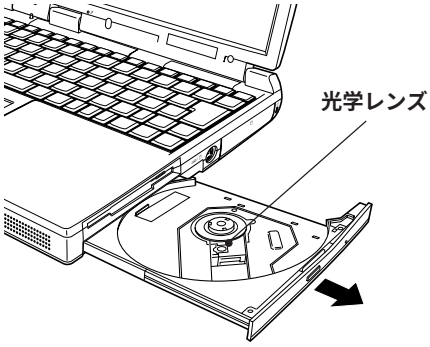
- **CD-ROMドライブアクセス中（アクセスLED点灯中）にメディアを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。**
- **ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。**

セット方法

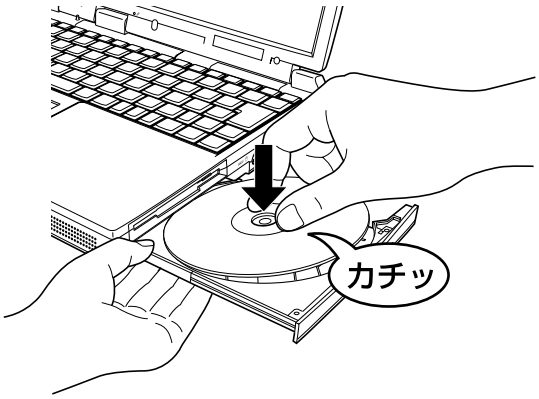
1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



2 ディスクトレイを静かに引き出します。



3 印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまで押し込みます。



4 ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

1 **イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。**

2 **メディアをディスクトレイから取り出します。**

3 **ディスクトレイを静かに閉じます。**

強制的なメディアの取り出し

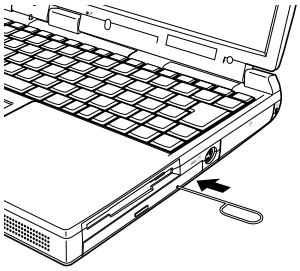
以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

- CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合。
- CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合。

1 **コンピュータの電源が入っている場合には、コンピュータの電源を切ります。**

p.22「電源の切り方」

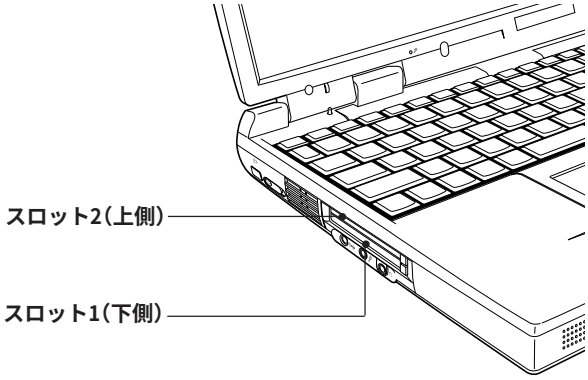
2 **イジェクトホールに丈夫な先の細いもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。**



3 **ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。**

PCカードを使う

本機には、PCカードスロットが2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、TypeII ×2枚またはType III ×1枚です。各スロットの仕様は、次のとおりです。



スロット		装着可能なサイズ	仕様
上側	スロット2	タイプII	CardBus対応
下側	スロット1	タイプIIまたはタイプIII	CardBus対応

制限

- **CardBus対応のPCカードと、赤外線通信やECP対応デバイスを同時に使用することはできません。赤外線通信またはECP対応デバイスを使用する場合には、CardBus対応のPCカードを取り外してください。**
- **PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要なものがあります。詳しくは、お使いになるPCカードのマニュアルをご覧ください。**
- **省電力モードに移行すると、HDDやPCカードへの電源の供給が停止されます。使用途中で電源を切ることによって不具合が発生する可能性のあるPCカード（FAXモデムカードやネットワークカードなど）では、省電力機能を使用しないでください。**
- **赤外線通信をFIR通信モードで設定している場合は、PCカード（Card Bus対応以外）を2枚同時に使用することはできません。**

PCカードのセットと取り外し

制限

- **PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、壊れることがあります。**
- **Windows98では、使用時に電源を切らずにPCカードを抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時には、PCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。**

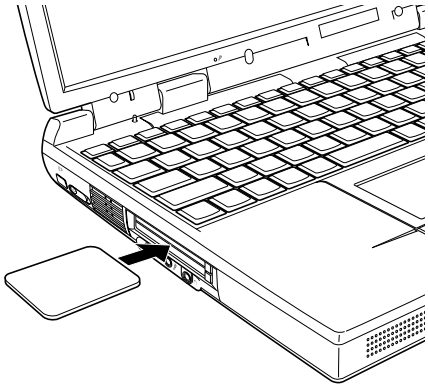
PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1 **使用するPCカードが、どのスロットで使用可能か確認します。**

2 **PCカードをPCカードスロットに挿入します。**

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。



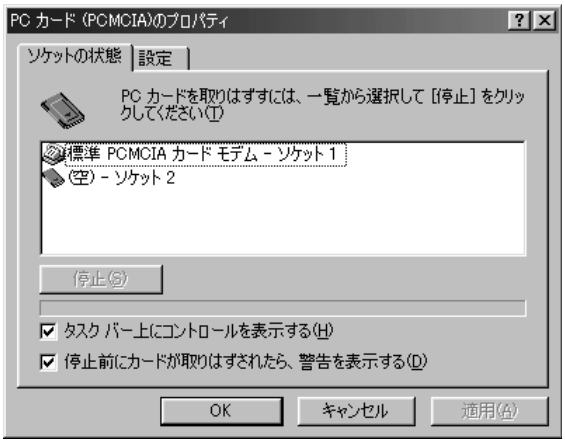
3 **コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。**

4 **ＰＣカードが認識されます。**
正しくセットされると「ピポッ」という認識音が鳴り、タスクバーに次のようなPCカードアイコンが表示されます。

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中にWindowsのCDを要求された場合は、次のフォルダを指定してください。
「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」（Cドライブに登録されている場合）

ＰＣカードの内容を確認するには

画面右下のタスクバーに表示される「ＰＣカード」アイコンまたは「コントロールパネル」の「ＰＣカード（ＰＣＭＣＩＡ）」をダブルクリックすると、「ＰＣカード（ＰＣＭＣＩＡ）のプロパティ」が表示されます。



PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

制限

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

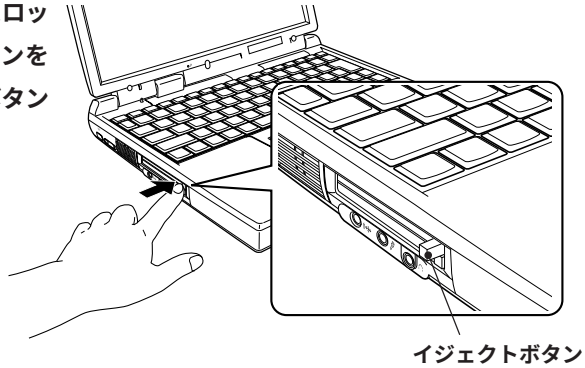
1 **PCカードの終了処理を行います。**

❶ **「コントロールパネル」**―**「PCカード(PCMCIA)」**または**「PCカード」**アイコンをダブルクリックします。

❷ 取り外すPCカードを選択して**[停止]**をクリックします。

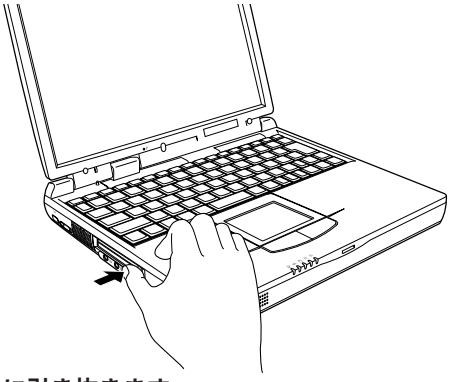
❸ **「このデバイスは安全に取りはずせます。」**と表示されたら、**[OK]**をクリックします。

2 **取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出ます。**



3 **イジェクトボタンを押します。**

Windows98動作中にPCカードを取り出す場合は、「ピポッ」と認識音が鳴ります。



4 **PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

赤外線通信を使う

本機は、赤外線通信機能を装備している機器、あるいは外付けの赤外線通信機器と、本機の赤外線通信ポートを使用してデータのやり取りを行うことができます。赤外線通信は、ケーブルの接続が不要なため、簡単にデータの通信を行うことができます。赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが別途必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。

本機の赤外線通信機能は、次の通信モードに対応しています。

通信モード	特長	使用するソフトウェア例
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps IrDA1.1規格	Windows98の赤外線通信機能
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps IrDA1.0規格	

制限

赤外線通信の通信モードをFIRで設定すると、PCカード（Card Bus対応以外）を2枚同時に使用することができません。

赤外線通信を使うための準備

赤外線通信を行う場合は、次の設定変更や準備が必要です。

BIOS Setupユーティリティの設定を変更する

↓

Windows98起動時に赤外線ポートを検出

↓

赤外線通信の詳細設定（FIRで使用する場合のみ）

BIOS Setup ユーティリティの設定を変更する

赤外線通信を行うためには、BIOS Setupユーティリティの「Advancedメニュー画面」―「I/O Device Configuration」項目を次のように変更します。
「IR Port」項目の初期設定値は、「Disabled」に設定されています。

p.116「Advancedメニュー画面」―「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

BIOS項目	通信モード	
	FIRで使用する場合	SIRで使用する場合
IR Port	2F8H/IRQ3	
Mode	FIR	SIR
DMA Channel	1*	―

* 赤外線ポートのDMA Channelは、パラレルポートのDMA Channelと重ならない値に設定します。パラレルポートのDMA Channel設定は、「I/O Device Configuration」項目―「Parallel Port」―「Mode」が「ECP」に設定されているときに必要です。

BIOS Setupユーティリティの設定変更が終了したら、BIOS Setupユーティリティの設定を必ず保存して終了します。

Windows98 起動時に赤外線ポートを検出

BIOS Setupユーティリティを終了すると、Windows98が起動し、自動的にドライバのインストールが行われ、次の赤外線ポートが検出されます。
・FIRの場合:「IrDA v3.0 Fast Infrared Port」
・SIRの場合:「赤外線 PnP シリアルポート」

赤外線通信の詳細設定（FIRで使用する場合）

FIRモードで赤外線通信を行うためには、次の設定が必要です。

1 **「コントロールパネル」―「ネットワーク」―「ネットワークの設定」タブの「IrDA v3.0 Fast Infrared Port」をダブルクリックし、「IrDA v3.0 Fast Infrared Portのプロパティ」を開きます。**

2 **「詳細設定」タブの「プロパティ」から「Infrared Transceiver A」を選択し、「値」から「IBM 31T1100」を選択して[OK]をクリックします。**

3 **「ネットワーク」画面を閉じて、「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。**
Windowsが再起動すると、設定は終了です。

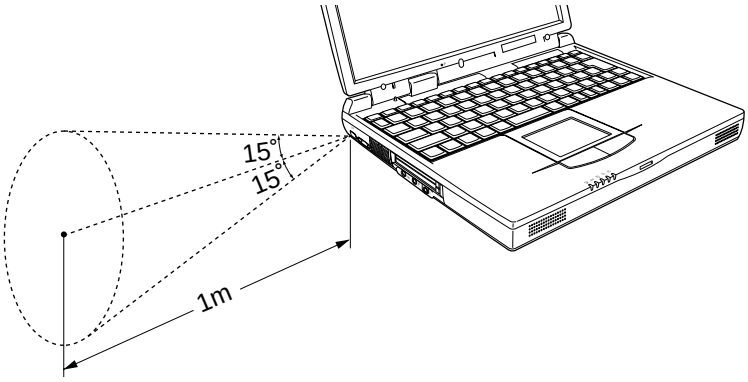
赤外線通信の実行

通信時の注意

- 赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。
- 赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。
- 直射日光や蛍光燈などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。
- オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

通信可能な距離

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は、1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



赤外線通信機能を使った赤外線通信は、次のとおり行います。

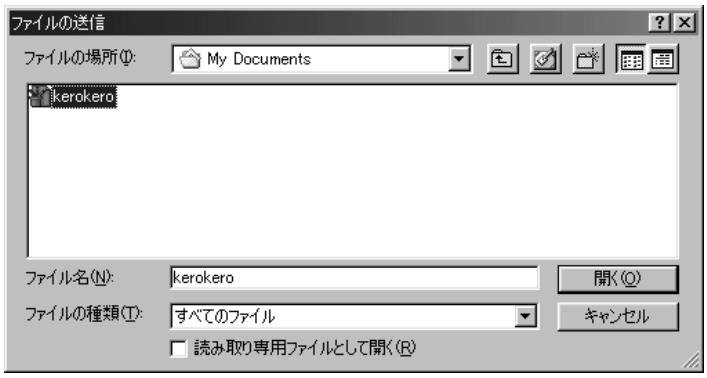
1 **通信を行う2台のコンピュータの「コントロールパネル」－「赤外線モニタ」をダブルクリックします。**

2 **「オプション」タブの「赤外線通信を使用可能にする」にチェックを付けます。**

3 **通信を行う2台のコンピュータの赤外線ポートを通信可能な位置に設置します。Windows上で、2台のコンピュータの赤外線ポートが自動的に検出されると、タスクバーに「赤外線ポート」アイコンが表示されます。**

4 **送信側コンピュータの「マイコンピュータ」－「赤外線の受信側」をダブルクリックします。**

5 **「赤外線転送」画面で［ファイルの送信］をクリックします。「ファイルの送信」画面が表示されます。**



6 **送信するファイルを選んで、［開く］をクリックします。ファイルが送信されます。送信されたファイルは、受信側コンピュータの「マイコンピュータ」－「赤外線の受信側」－［受信したファイル］に登録されます。**

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は、次のとおりです。

- LCDユニット（本体）
- CRTディスプレイ（外付けディスプレイ）

LCDユニット

本機は、13.3型TFT XGAカラーLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

制限

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性により起きるもので故障ではありません。

- **液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。**
- **色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。**
- **Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。**

明るさの調整

画面の明るさの調整は、次のキーで行います。

キー操作	状態
Fn ＋ F5（☼）	明るくなる
Fn ＋ F6（☀）	暗くなる

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は、次の方法で行います。

- **Fn ＋ F7 を押す：**もう一度押すとバックライトが点灯します。
- **LCDユニットを閉じる：**再びLCDユニットを開くとバックライトが点灯します。本機では、LCDユニットを閉じたときの動作の設定変更が行えます。

p.66「LCDユニットを閉じたときの動作」

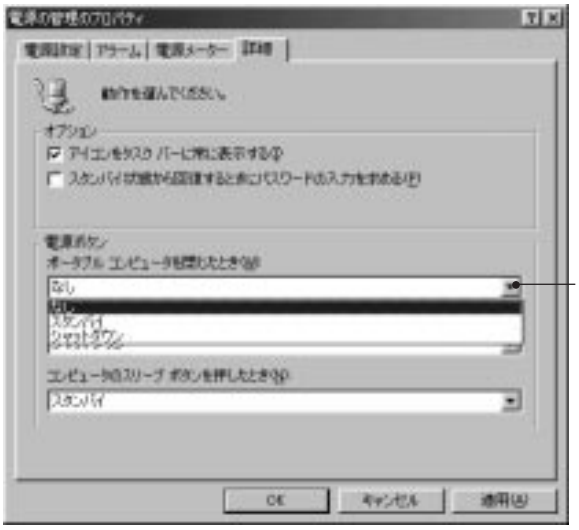
ＬＣＤユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときにスタンバイに移行する、コンピュータの電源を切るなどの動作を設定できます。

設定は、「コントロールパネル」―「電源の管理」―「詳細」タブで行います。

初期設定は、「なし（バックライトの消灯）」に設定されています。

p.91「省電力機能を使う」



ＬＣＤユニットを閉じたときの動作を設定します。

ＣＲＴディスプレイ

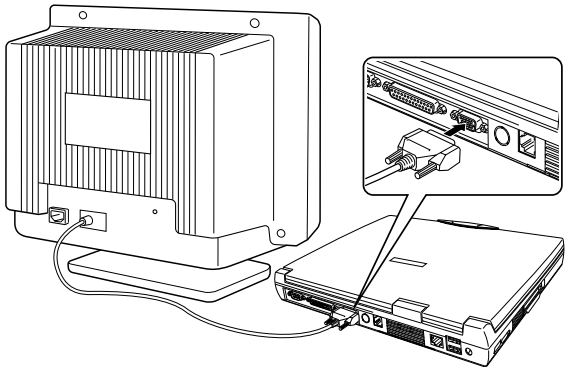
ディスプレイの接続

本機では、CRTディスプレイ（外付けディスプレイ）を接続して使用できます。

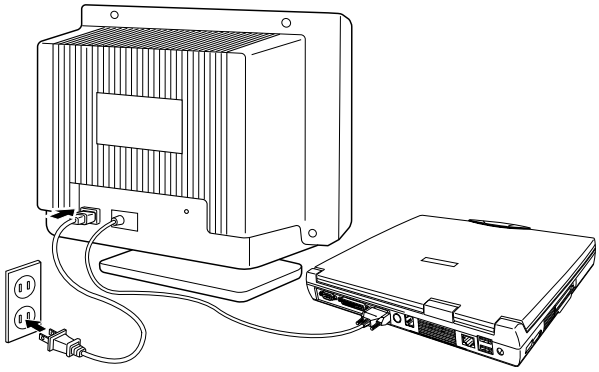
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1 **本機とＣＲＴディスプレイの電源を切ります。**

2 **ＣＲＴディスプレイの接続コードを、本機背面のＶＧＡコネクタに接続します。**



3 **CRTディスプレイの電源コードを、CRTディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。**



4 **CRTディスプレイと本機の電源を入れます。**

表示装置の切り替え方法

本機では、CRTディスプレイが接続されているときに、次のようなドライバーモードで表示することができます。

- **シングルモード**

  LCD画面とCRTディスプレイのどちらか一方に表示します。

- **ミラーモード**

  LCD画面とCRTディスプレイに同じ画面を表示します。

- **マルチモニターモード**

  大きな一つの画面をLCD画面とCRTディスプレイで分割して仮想的に並べた表示ができます。2つのアプリケーションを別々の画面で表示することができます。

  マルチモニターモードの詳細は、p.69をご覧ください。

切り替え方法

ドライバーモードの設定は、「コントロールパネル」－「画面」－「設定」タブ－［詳細］－「ディスプレイモード」タブで行います。

ドライバーモードを設定します。

チェックが付いていると、接続状態を自動的に認識します。このチェックは外さないでください。CRTディスプレイ（外付けディスプレイ）が接続されていない場合は、「シングルモード」のみの表示となります。

ドライバーモードの設定は、キーボード操作でも行うことができます。Fn ＋ F8 を押すたびに下記の順番で切り替わります。ただし、マルチモニターモードへの切り替えは、行うことはできません。

シングルモード（LCDのみに表示）→ シングルモード（CRTのみに表示）
↑ ミラーモード（LCDとCRTに表示）←

制限

- **接続状態をコンピュータに認識させるため、上図の「オート」項目のチェックは、必ず付けた状態で使用してください。チェックを外すと、表示装置の切り替えを正常に行うことができません。**
- **表示装置をシングルモード（CRTのみに表示）に切り替えると、LCDには何も表示されません。表示装置の切り替えは、CRTディスプレイを接続し表示できる状態にしてから行ってください。何も表示されなくなったときには、Fn ＋ F8 を押して表示装置を切り替えてください。**

参考

- **ビデオプロジェクタの接続**

  ビデオプロジェクタを接続する場合は、ミラーモード（LCDとCRTに表示）を使用します。

- **Safeモードでの起動**

  接続されているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、解像度によってはWindowsの画面が正常に表示されないことがあります。このようなときには、Safeモードで起動して、正しく設定し直してください。Safeモードは Windowsを基本的な設定で起動するモードです。

  p.132「LCDの不具合」

マルチモニターモード

「ドライバーモード」で、「マルチモニターモード」を選択して、再起動後に「画面のプロパティ」－「設定」タブを開くと、次の画面が表示されます。

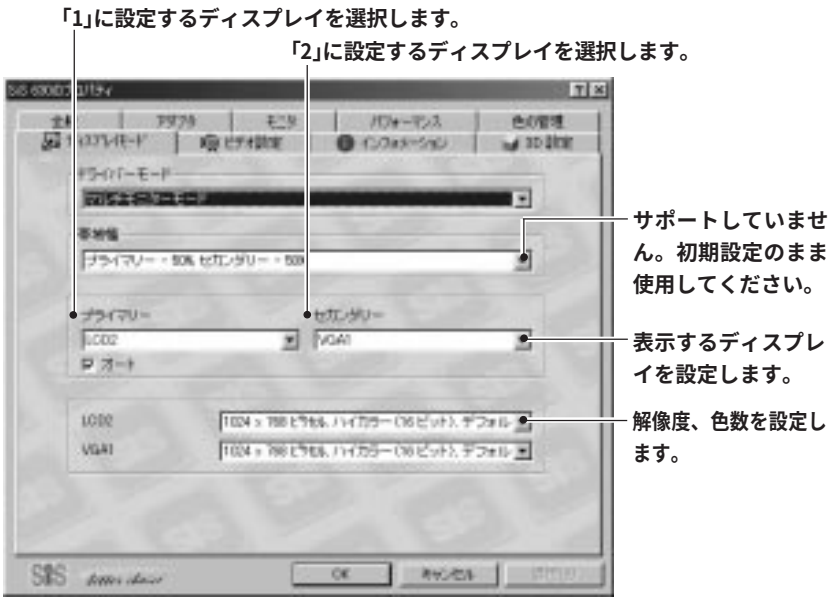
ディスプレイの位置関係を示しています。「1」の右側を「2」が表示します。「2」をドラッグして位置を変更することができます。

解像度を変更するときに、変更したいディスプレイを選択します。

チェックマークが付いているとマルチモニターモードが有効です。「2」を選択するとチェックが付きます。

本機購入時のディスプレイの位置関係は、「1」がCRT、「2」がLCDに設定されています。実際にマルチモニターモードをお使いになる時は「1」がLCD、「2」がCRTになるように変更してから使用することをおすすめします。

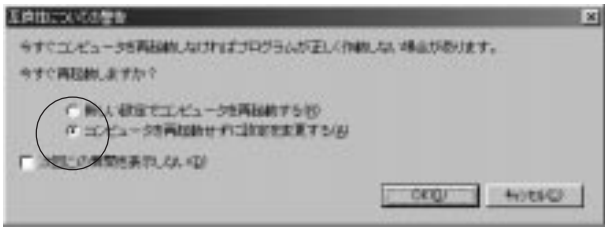
マルチモニターモードを使用する場合には、「ディスプレイモード」タブで次のような設定を行うことができます。



表示できる解像度と色数については、次章「解像度や表示色を変更する」をご覧ください。

切り替え時の制限

- CRTディスプレイを接続した状態で、ドライバーモードをミラーモードから、LCDのシングルモードに変更する場合、表示色が256色に設定されていると、LCDだけでなく、CRTにも表示されてしまいます。LCDの表示色を256色以外に設定してください。
- ドライバーモードを変更すると、次の画面が表示される場合があります。この場合は、「コンピュータを再起動せずに、設定を変更する。」を選択して、その後［スタート］から再起動を行ってください。「新しい設定で、コンピュータを再起動する」を選択しても、設定が有効になりません。



解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度、表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

Safeモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモードで起動して再設定を行ってください。

p.132「LCDの不具合」

解像度や表示色を変更するには

1 「コントロールパネル」―「画面」をダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面の領域」、「色」の項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。
ミラーモードでは、LCDとCRTは同じ設定でのみ表示できます。
マルチモニターモードではLCDとCRTで別の解像度で表示できます。

制限

- **本機では、下表以外の設定を選択することも可能ですが、それらの設定に関しては動作保証をしていません。**
- **CRTの解像度と表示色は、使用するディスプレイによって表示できない場合があります。**
- **CRTディスプレイを接続した状態で、ドライバーモードをミラーモードからLCDのシングルモードに変更する場合、表示色が256色に設定されていると、LCDだけでなく、CRTにも表示されてしまいます。LCDの表示色を256色以外に設定してください。**

LCDの表示

解像度＼表示色	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	△

△：シングルモードは、表示可能

CRTの表示

解像度＼表示色	256色	High Color（16ビット）	True Color（32ビット）
640×480ドット	○	○	○
800×600ドット	○	○	○
1024×768ドット	○	○	△
1280×1024ドット	△	△	▲

△：シングルモードとマルチモニターモードは、表示可能
▲：シングルモードは、表示可能

サウンド機能を使う

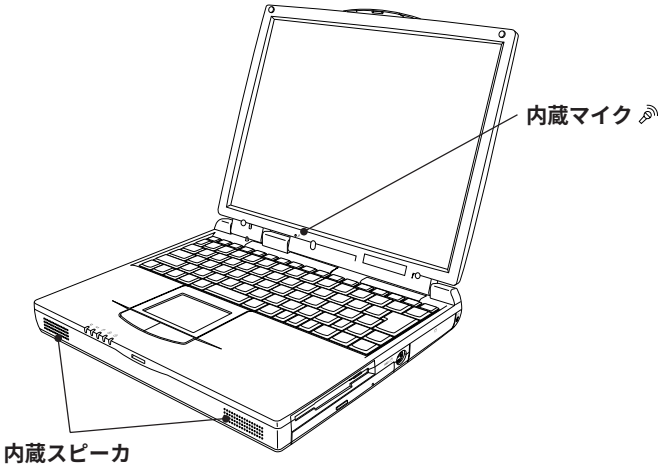
本機には、サウンド機能(SIS 630 Integrated AC'97)が搭載されています。前面には、内蔵スピーカと内蔵マイク、左側面には、ライン入力コネクタ、マイク入力コネクタとヘッドフォン出力コネクタが用意されています。

注意

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となる恐れがあります。

内蔵マイク

本機のLCDユニットの画面下には、マイク(モノラル)が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。



内蔵スピーカ

本機の前面には、スピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。
スピーカの音量の調整は次の方法で行います。

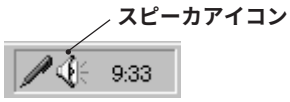
●キーボード操作

次のキーを押して、音量を調節できます。

Fn + F10	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。
Fn + F11	スピーカの音量を大きくします。
Fn + F12	スピーカの音量を小さくします。

●スピーカアイコン

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。



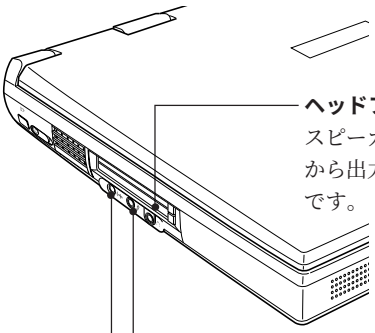
参考

音量調整

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。この場合は、お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

外部オーディオ機器などの接続

本機の左側面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。



ヘッドフォン出力コネクタ

スピーカやヘッドフォンなどと接続して内蔵スピーカから出力される音声を外部に出力するためのコネクタです。

マイク入力コネクタ

マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ライン入力コネクタ

カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

参考

スピーカ、マイクの接続

スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は、自動的に無効になります。

音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは、「プログラム」—「アクセサリ」—「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

FAXモデムを使う

本機には、56Kbps（V.90/K56flex対応）の通信速度に対応したFAXモデム機能が搭載され、高速の通信が可能です。

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でもプッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。
ダイヤル回線またはプッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトやWindows上で設定することができます。

- **ダイヤル回線**（パルス）：回転式ダイヤル電話機のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- **プッシュ回線**（トーン）：押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

● PBXへの接続

本機をPBX（構内交換機）に接続した場合は、NTT回線とPBXの回線（内線）の電気的特性などが異なると本機が正常に動作しない場合があります。
PBXの管理者または保守業者などに電気的特性などがNTT仕様と一致するかどうかを確認してから接続を行ってください。

● 2線式でない電話装置(ホームテレホンなど)での使用

ホームテレホンやビジネスホンなどの2線式でない電話装置は、内線の仕様がNTTの加入電話回線と異なります。このため内線側に（子機として）本機をそのまま接続することはできません。
このような場合は、NTTの回線と電話装置の主装置（親機）の間に切換機を設けたり、内線側に特別な処置をすることによって、本機の使用が可能になります。詳しくは、電話装置の販売業者や保守業者にお問い合わせください。

● キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合は、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用を避けてください。
なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90*およびK56flex**の通信方式により最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、33600bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
*V.90　：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
**K56flex：Lucent Technologies社とRockwell International社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

ATコマンドについて

本モデムでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、デスクトップ上の「ATコマンドリファレンス.pdf」をご覧ください。

国モードの設定について

本機の国モード（Country）は「Modem Country Selection」で日本国（Japan）に設定されています。この設定は変更せずに使用してください。

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは、次のとおりです。

電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

☞ p.13「電話回線へ接続する」

↓

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

☞ p.81「ダイヤル情報の設定」

↓

プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。
契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

❶オンラインで契約する。

電話回線を使用してインターネット参照サーバに接続し、プロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐに使えますが支払いについては、クレジットカード決裁になります。

☞ p.81「オンラインでプロバイダと契約する」

❷ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

☞ p.83「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

↓

接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトルックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

p.87「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」

参考

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

- **ISDN回線を利用する**

  FAXモデムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

- **ネットワークを利用する**

  インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- **ケーブルテレビの回線を利用する**

  詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択

プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点などについては、プロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用

インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

- **初期費用：**プロバイダへ契約時に支払います。
  入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。
- **基本料金：**月または年ごとにプロバイダへ支払います。
  通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。
- **追加課金：**基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。
  基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。
- **通話料金：**プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。NTT へ支払います。
  アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

インターネットを使う上での注意

インターネットや、電子メールを利用すると簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けてインターネットや電子メールを使用してください。

- 電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- 電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、正しくない可能性があります。正しい情報であることを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 **[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」をクリックし、「モデム」アイコンをダブルクリックします。**

2 **[ダイヤルのプロパティ]をクリックします。**

3 **「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

オンラインでプロバイダと契約する

ここでは、モデムに電話回線を接続して「インターネット接続ウィザード」から、マイクロソフト社が用意したインターネット参照サーバに接続する方法を説明します。参照サーバの一覧から契約したいプロバイダを選択して契約できます。電話番号や、IDなどの各種登録や設定が自動で行われ、契約完了後にインターネットがすぐ使えます。

プロバイダと契約する

オンラインでプロバイダと契約する手順は、次のとおりです。契約時にクレジットカードのナンバーや有効期限などの情報が必要ですので、事前に用意しておきます。

1 **[スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「インターネットツール」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。**

2 **「インターネット接続ウィザード」画面が表示されたら、「新しいインターネットアカウント…」を選択して、[次へ]をクリックします。**

3 **インターネット参照サーバの電話番号が表示されます。地元の電話番号または「Nationwide(120)345349」を選択し、[次へ]をクリックします。ダイヤルが開始され、必要な情報がダウンロードされます。**

4 **ダウンロードされた情報が開きます。契約したいプロバイダを選んで、[次へ]をクリックします。**

5 **情報を入力して、契約します。以降は、各プロバイダの画面の指示に従ってください。**

プロバイダから提示されるユーザーIDやパスワードなどの情報は、忘れずに書きとめておきます。

参考

「オンラインサービス」でプロバイダ契約

Windows98では、「オンラインサービス」というフォルダがデスクトップに表示されています。「オンラインサービス」フォルダ内のプログラムは、国内の代表的なプロバイダと契約できるサービスです。

「オンラインサービス」フォルダを開くと、プロバイダ名のアイコンがいくつか表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、契約のための画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合のダイヤルアップ接続の設定方法を説明します。
プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行い、インターネットに接続できるようにします。
本章の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

参考

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	：コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
パスワード	：PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	：Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	：Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	：メールサーバ、POP メールサーバ

ダイヤルアップ接続の設定をする

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「プログラム」－「アクセサリ」－「インターネットツール」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2 「インターネット接続ウィザードにようこそ」と表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、・・・」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

4 「ステップ１：インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。

5 プロバイダからＤＮＳ（ドメイン・ネーム・サーバー）のＩＰアドレスを指定されている場合は［詳細設定］をクリックします。
ＩＰアドレスの指定がない場合は手順１０へ進みます。

6 「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。

7 「ＩＳＰによるＤＮＳアドレスの自動割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。

8 「プライマリＤＮＳサーバー」、「別のＤＮＳサーバー」に、プロバイダから指定されているＤＮＳ（ドメイン・ネーム・サービス）のＩＰアドレスを入力し、［ＯＫ］をクリックします。

9 「ステップ１：…」画面に戻ったら［次へ］をクリックします。

１０ 「ステップ２：インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、［次へ］をクリックします。

１１ 「ステップ３：コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、［次へ］をクリックします。

12 **「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。**

13 **プロバイダからの資料をもとに、次の設定を行います。**

❶ **「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。**

❷ **「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。**

❸ **「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。**

❹ **「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。**

14 **「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。**

「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動します。

次の「インターネットへの接続と切断」に進みます。

インターネットへの接続と切断

接続を開始する

インターネットへの接続は、次の方法で行います。

1 **「Internet Explorer」、または「Outlook Express」を起動します。**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」、「ユーザー名」、「パスワード」などを入力します。**

自動的に入力されている項目もあります。

3 **入力内容を確認して[接続]をクリックします。**

4 **接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。**
接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。

参考

- **ダイヤルアップ接続から接続する**
  インターネットの接続を開始するには、次のような方法もあります。
  「マイコンピュータ」ー「ダイヤルアップネットワーク」の接続したいアイコンをダブルクリックし、[接続]をクリックします。この場合は、接続完了後に「Internet Explorer」、または「Outlook Express」を起動します。
- **電子メール作成時のインターネット接続**
  電子メールの送受信は、インターネットに接続されていないと行えませんが、メールを作成しているときや受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

接続を終了する(切断)

インターネットの切断は、次の方法で行います。

タスクバーに表示されている「接続」アイコンを右クリックし、「切断」をクリックします。

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- **Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)**
  インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
- **Outlook Express(アウトルックエクスプレス)**
  メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

Internet Explorerの使い方

起動

1 デスクトップ上の「Internet Explorer」アイコンをダブルクリックします。

2 「ダイヤルアップの接続」画面で[接続]をクリックします。接続が完了するとホームページが表示されます。

終了

1 画面右上の☒をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。

2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。これでインターネットが切断されます。

使い方

※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

- **見たいホームページを開くには**

  ・アドレスバーにURLアドレスを入力して [↵] を押します。

  ・キーワードを使って検索します。

  [検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

- **「お気に入り」にページを登録する**

  頻繁にアクセスするページは、「お気に入り」に登録しておくと、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。

  登録方法：「お気に入り」ー「お気に入りに追加」をクリックします。

- **リンクしているページにジャンプする**

  ホームページの画面上でポインタが ↖ から ☝ に変わる場所があります。☝ に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方

起動

1 デスクトップ上の「Outlook Express」アイコンをダブルクリックします。

2 インターネットに接続する場合は、「ダイヤルアップの接続」画面で[接続]をクリックします。接続が完了すると自動的にメールの送受信ができます。

終了

1 画面右上の☒をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

2 インターネットに接続している場合は、「自動切断」画面で、[今すぐ切断する]をクリックします。

使い方

参考

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」―「オフライン作業」をクリックします。

接続の状態を表示します。
オンライン：インターネットに接続しています。
オフライン：インターネットに接続していません。

メールを送信する（オンラインの場合）

1 [新しいメール]ボタンをクリックしてメール作成画面を表示します。

2 必要事項　「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。

3 [送信]ボタンをクリックします。

メールを送信する(オフラインの場合)

1 上記手順「メールを送信する(オンラインの場合)」1、2を参照して、メールを作成します。

2 [送信]ボタンをクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
複数のメールを作成し、1度に送信することができます。

3 [送受信]ボタンをクリックして、「ダイヤルアップの接続」画面で、[接続]をクリックします。
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると、自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信] ボタンをクリックすると接続作業が行われます。

2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

1 [アドレス]ボタンをクリックします。

2 [新規作成]ボタンをクリックして、[新規の連絡先]をクリックします。

3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能を使う

省電力機能を使うと消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使う場合は、省電力機能を使うことで使用可能時間を延ばすことができます。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます(使用環境により復帰時間は異なります)。
- **休止状態**
  作業内容をあらかじめHDD内に作成してある領域(Save to Disc領域)に保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

ローバッテリ省電力機能

本機は、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定などは、「コントロールパネル」—「電源の管理」—「アラーム」タブで行います。

☞p.30「バッテリアラームの設定」

初期設定値は、次のとおり設定されています。

バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量	10%
バッテリ切れを通知するバッテリ残量	3%
バッテリ切れのコンピュータの動作	スタンバイモードに移行する

休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。

● **Save to Disk領域の作成**

作業内容を保存する領域(Save to Disk領域)を作成する必要があります。購入時にSave to Disk領域は作成されていません。休止状態を使用する場合は、Save to Disk領域を作成する必要があります。また、次の場合は、Save to Disk領域を作成をしなおす必要があります。

・ メモリモジュールの増設を行った場合

・ リカバリの実行を行った場合

p.153「Save to Disk領域の作成」

● **休止状態の設定**

「コントロールパネル」－「電源の管理」－「休止状態」タブをクリックし、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。Save to Disk領域が作成されていないと「休止状態」タブは表示されません。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する時には、次のような制限事項があります。省電力機能を使用する前に、必ず確認してください。

- 省電力機能の設定は「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
  - 再起動する。
  - 省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)を保存しておくことをおすすめします。
- 赤外線通信やFAXモデムカード、ネットワークカードのPCカードを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モードに移行中にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① **時間経過で実行**

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② **直ちに実行**

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「コントロールパネル」―「電源の管理」―「電源設定」タブで行います。

設定した時間を超えて何も操作しないと、スタンバイに移行します。

設定した時間を超えて何も操作しないと、ディスプレイまたはHDDの電源が切れます。

直ちに実行

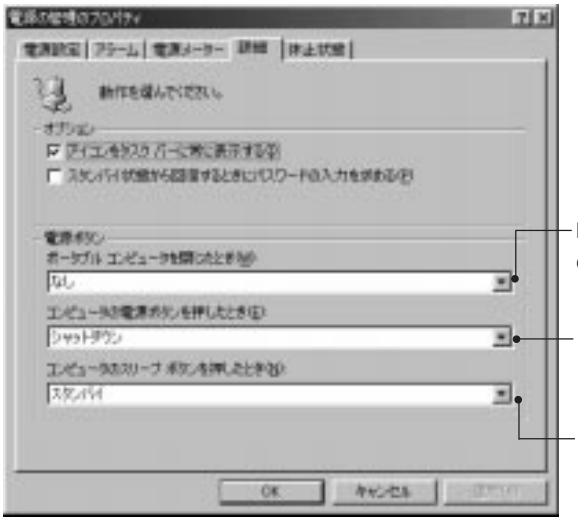
次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］－「Windowsの終了」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn＋F1を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn＋F1キーを押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、「コントロールパネル」－「電源の管理」－「詳細」タブで行います。

初期設定は、次のとおりです。

・ LCDユニットを閉じる　　：なし（バックライトの消灯）
・ 電源スイッチを押す　　：シャットダウン（電源を切る）
・ Fn＋F1キーを押す　：スタンバイ



LCDユニットを閉じたときの動作を設定します。

電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Fn＋F1キーを押したときの動作を設定します。

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	● タッチパッド、キーボードを操作する。(誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	● 電源スイッチを押す。 ● キーボードを操作する。 ● LCDユニットを開く。
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す。

そのほかの機能

ネットワーク機能

本機には、ネットワーク機能が搭載されています。
ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するためにネットワークケーブル、ハブやサーバなどが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

制限

- **NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。**
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- **ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。**

パラレルコネクタ

本機背面には、パラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。そのほか接続できるものについては、各周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

パラレルポートの設定

本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。
p.116「Advancedメニュー画面」―「I/O Device Configuraionサブメニュー画面」

シリアルコネクタ

本機背面には、シリアルコネクタが1個用意されています。シリアルコネクタには、シリアルマウス、外付けFAXモデムやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。

シリアルポートの設定

本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

p.116「Advancedメニュー画面」—「I/O Device Configuraionサブメニュー画面」

USBコネクタ

本機には、USBコネクタが背面に2個用意されています。2個のUSBコネクタは、同じ機能ですので、どちらのコネクタを使用してもかまいません。USBコネクタを使用する場合は、接続する周辺機器に添付されているデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは接続する機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア**「VirusScan for Windows」**が添付されています。

データファイルの更新

次々に出現する新しいコンピュータウィルスに対応するためには、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新が必要です。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windowsユーザーズガイド』は添付の「リカバリCD」に登録されています。

アップデート時の注意

「McAfee VirusScanセントラル」からのアップデート時には、インターネットにアクセス可能な状態でアップデートを行ってください。インターネットにアクセス不可能な状態では、選択できるサーバ(接続先)が海外になってしまいます。

システムを拡張する

メモリモジュールの増設やコンピュータに
接続できる機器について説明します。

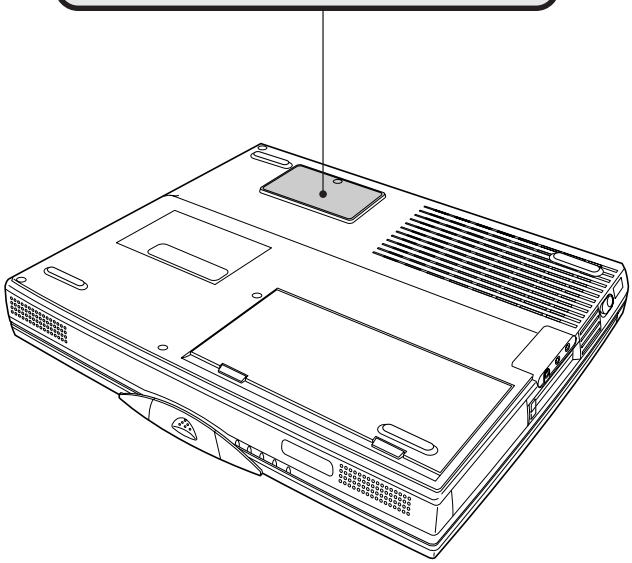
拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設・交換して、機能を拡張することができます。

■ **メモリモジュール**

本機にはメモリスロットが1本用意されており、メインボード上のメモリ64MBと合わせて最大192MBまで拡張することができます。内蔵メモリを増やせば、より快適にコンピュータを使用することができます。

☞ p.101「メモリモジュールの増設」



メモリモジュールの増設

本機のメインボードには、64MBのメモリが搭載されています。そのほかにメモリ増設のためのメモリスロットが1本用意されています。SODIMMを追加または交換することで最大192MBまでメモリ容量を増やすことができます。本機で使用可能なSODIMMの仕様は、次のとおりです。

- 144ピンSODIMM（Single Outline Dual Inline Memory Module）
- メモリ容量 64MB/128MB

上記仕様と一致するSODIMMを当社のオプションより選択してください。

制限

省電力機能で「休止状態」を使用する場合は、メモリモジュールの増設後にメモリモジュールの容量に合わせてSave to Disk領域を一度削除し、作成し直す必要があります。

☞ p.153「Save to Disk領域の作成」

作業時の注意

SODIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。

警告

- **電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリパックをセットしたままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。**
- **マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。**

注意

SODIMMの増設・交換は本製品の内部が高温時には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

制限

- 本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリを抜いてください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。SODIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- SODIMMを持つときは、SODIMMの端子部や素子に触れないでください。SODIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。
- 装着する方向を間違えないでください。SODIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- SODIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- SODIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

SODIMMの増設

SODIMMの増設は、次の手順で行います。
SODIMMに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

SODIMMの取り付け

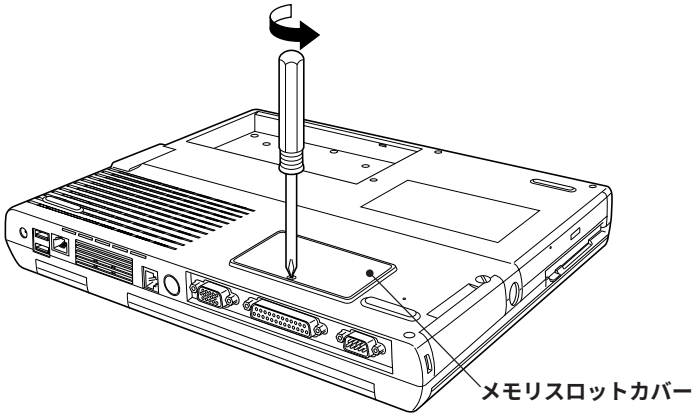
1 **コンピュータ本体の電源を切ります。**

2 **接続されているすべてのケーブルを外します。**

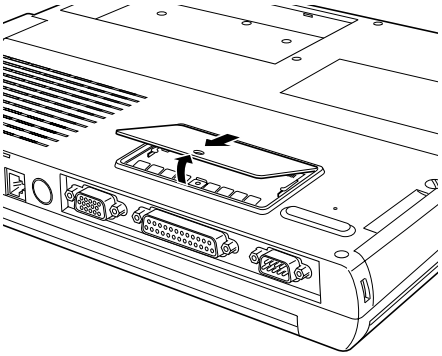
3 **本体底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

p.33「バッテリの交換」

4 **メモリスロットカバーのネジ(1本)を外します。**

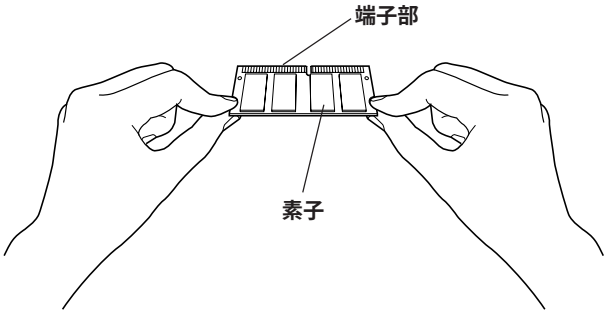


5 **メモリスロットカバーを持ち上げ、取り外します。**



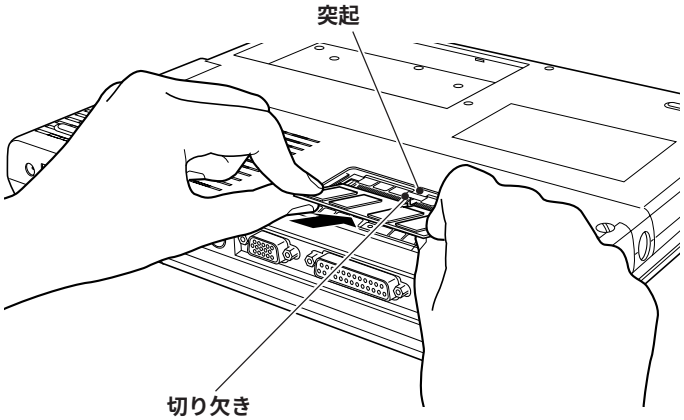
6 **SODIMMを梱包から取り出します。**

取り出す時は、SODIMMの端子部や素子に触れないように持ちます。

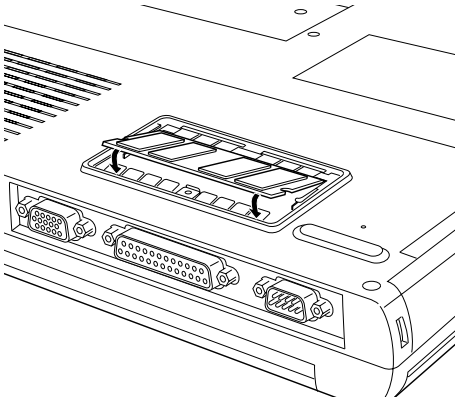


7 **SODIMMを差し込みます。**

切り欠きを突起に合わせ、SODIMMを約45度の角度でメモリソケットに差し込みます。



8 **固定タブがカチッと音がするまでSODIMMを静かに倒します。**



9 **メモリスロットのカバーを取り付け、ネジで固定します。**

10 **電源を入れて、起動時に表示される総メモリ容量を確認します。**

ただし、本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。初期設定値は8MBです。

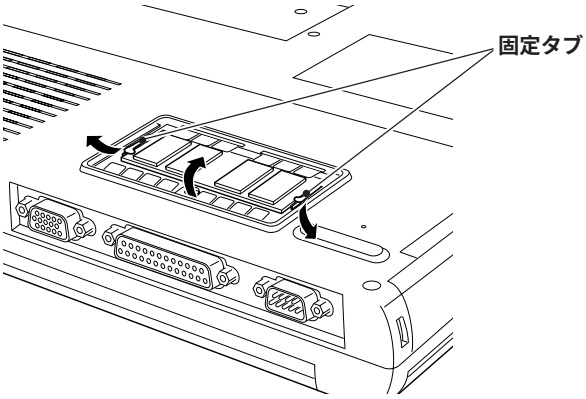
p.114「Mainメニュー画面」—「Video RAM Size」

装着した容量だけ、メモリが増えていれば作業は完了です。

容量が増えていない場合は、SODIMMが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切って、SODIMMを装着し直してください。

SODIMMの取り外し

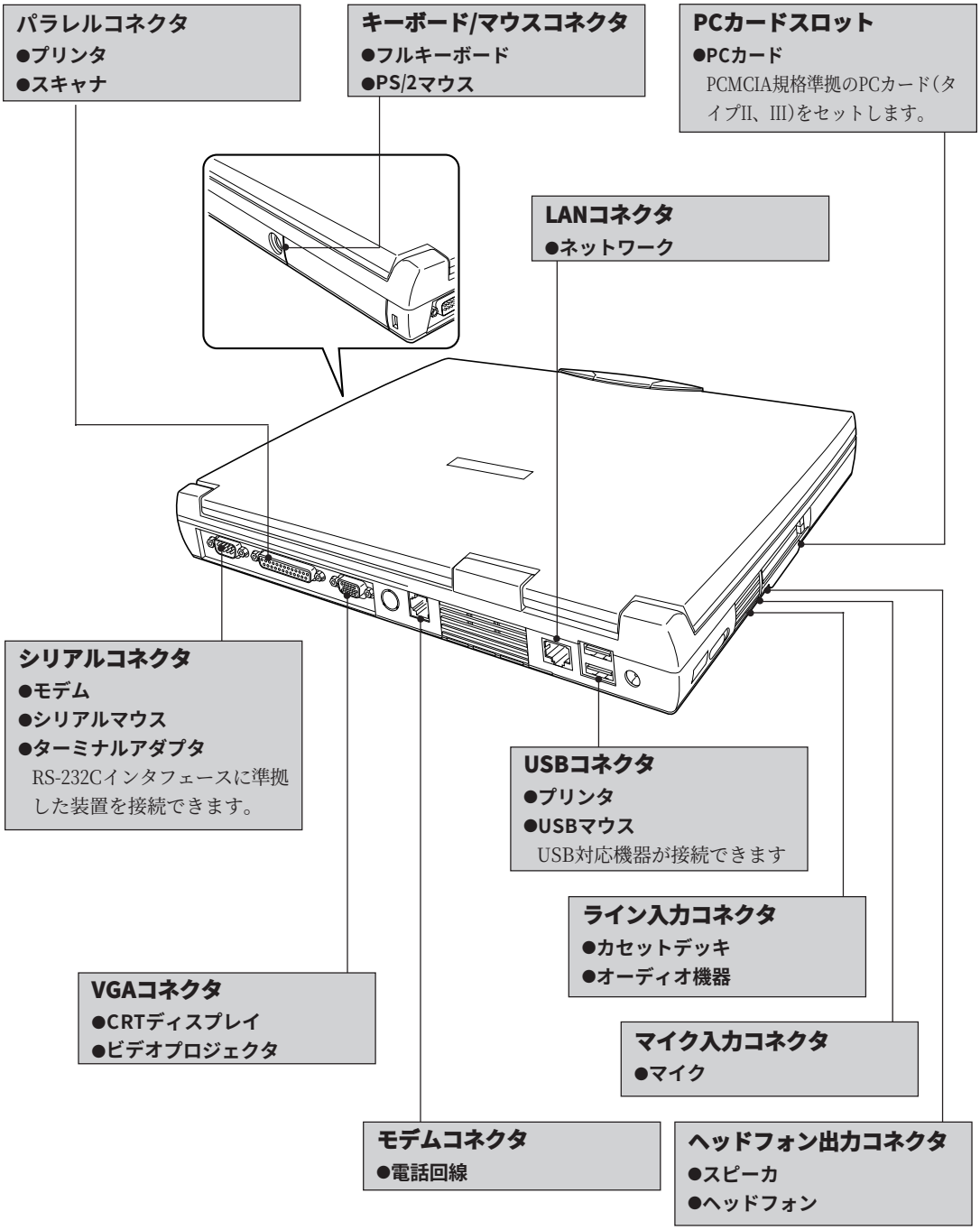
取り付けたSODIMMは、ソケットの固定タブを外側に広げると起き上がります。起き上がったSODIMMの両端を持って静かに引き抜きます。



取り外したSODIMMは静電防止袋に入れて保管してください。

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSはコンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定により、コンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- マウスを使う場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定は、**「BIOS Setupユーティリティ」**を実行して変更します。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

制限

- **BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定（初期設定値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。**
  ☞ p.122「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- **BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。**
  万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合にはp.109「設定値をもとに戻すには」をご覧ください。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

1 **コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。**

2 **画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に F2 を押します。F2 を押さないとシステムが起動します。**

Press F2 to enter SETUP

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

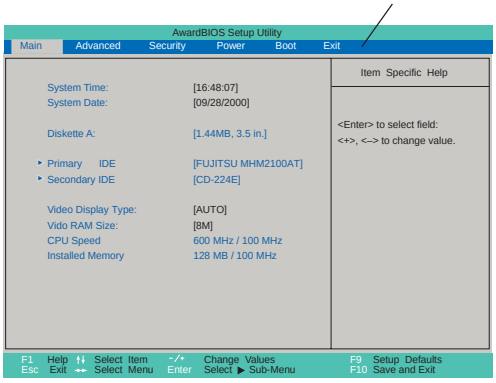
p.112「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

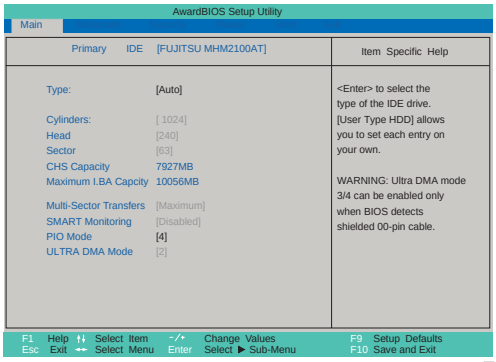
BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの操作はキーボードで行います。BIOS Setupユーティリティが起動すると下図のような〈メニュー画面〉が表示されます。〈メニュー画面〉から、▶マークの付いている項目にカーソルを合わせて ↵ を押すと〈サブメニュー画面〉が表示されます。

〈メニュー画面〉　**処理メニュー**

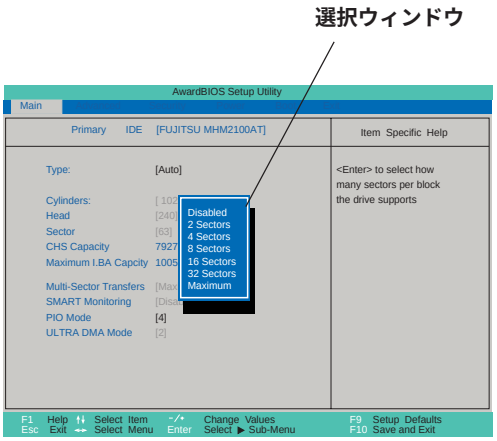


〈サブメニュー画面〉



選択ウィンドウ

BIOS Setupユーティリティの画面上で、設定値が黒字表示されている項目は設定の変更が可能です(青字表示されている項目は設定を変更することができません)。黒字表示の項目にカーソルを合わせて[↵]を押すと、**「選択ウィンドウ」**が表示されます。[↑][↓]キーで移動して[↵]を押します。



キー操作

キー	操作できる内容
[F1], [Alt] + [H]	ヘルプを表示します。
[Esc]	「EXIT」画面を表示します。 サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[-], [F5] [+], [F6]	項目の値を変更します。
[↵]	メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。
[F9]	全項目の値を初期設定値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。
[Page Up], [Home]	画面の中の最初の項目に移動します。
[Page Down], [End]	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を購入時の状態に戻すことができます。

初期値に戻す（Load Setup Defaults）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

1 **[F9]を押す、または「Exitメニュー画面」の「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Setup confirmation
Load default configuration now ? [Yes]　　[No]

2 **BIOSの設定を変更する場合は、[Yes]を選択して[↵]を押します。変更しない場合は[No]を選択して[↵]を押します。**

前回保存した設定値に戻す（Discard Changes）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

1 **「Exitメニュー画面」―「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

Setup confirmation
Load previous configuration now ? [Yes]　　[No]

2 **BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して[↵]を押します。**

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

変更した内容を保存し、終了する。(Exit Saving Changes)

1 Esc または → ← を押し、「Exitメニュー画面」を選択します。

2 「Exit Saving Changes」を選択し、↵ を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Save configuration changes and exit now ? [Yes] [No]

3 変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

変更した内容を破棄し、終了する。(Exit Discarding Changes)

1 Esc または → ← を押し、「Exitメニュー画面」を選択します。

2 「Exit Discarding Changes」を選択し、↵ を押します。設定値が変更されていなければ、そのまま BIOS Setup ユーティリティが終了し、システムが起動します。

3 設定値が変更されている場合は、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Discard confirmation changes and exit now? [Yes] [No]

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Exitメニュー画面

Mainメニュー画面

「Mainメニュー画面」は、次のような場合に使用します。

- 日付と時刻の設定
- 表示装置の切替
- IDE装置の仕様(転送モードやパラメータ)の設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

※は表示のみ
は初期設定値

System Time (hh:mm:ss)時間の設定		時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定		日付を設定します。
Diskette A※		接続しているFDDのタイプ(1.44MB)が表示されます。
Primary IDE Secondary IDE(IDE装置の設定)		接続しているIDE装置の機種を表示します。表示される項目や選択できる値はIDE装置やTypeの値によって異なります。
	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には[User Type HDD]などを選択して各項目を設定します。 None :IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto :BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD :HDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM :CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal :容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA :容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE :容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual :「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	CHS Capacity※	HDDの最大容量(CHS)を表示します。

	Maximum LBA Capacity※	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。「Type」項目を[Auto]に設定すると自動的に設定されます。 Disabled :複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors :転送セクタを設定します。 Maximum :HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disabled]のまま使用します。
	PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
Video Display Type (表示装置の設定)		起動時に使用する表示装置を設定します。 CRT : 外付けディスプレイに表示します。 Auto :起動時の接続状態に合わせて表示します。
Video RAM Size (ビデオメモリの設定)		メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 2M, 4M, 8M, 16M, 32M
CPU Type※(CPUの種類)		搭載しているCPUの種類を自動的に表示します。
CPU Speed※(CPUのスピード設定)		搭載しているCPUの周波数を自動的に表示します。
Installed Memory※		メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。

Advancedメニュー画面

「**Advancedメニュー画面**」は、次のような場合に使用します。

- インストールされているOSの設定
- 周辺デバイス(シリアルポート、赤外線ポート、パラレルポート)のアドレス設定
- NumLockモードの状態設定
- 診断プログラムの状態設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

Plug & Play O/S (Plug & Play 対応OSの設定)	初期設定[Yes] のまま使用します。
I/O Device Configuration	周辺デバイスのアドレス設定を行います。 ☞ p.116「I/O Device Configurationサブメニュー画面」
Internal Pointing Device	本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 PS/2マウスを使用する場合は、[Disabled]を選択します。 Disabled :タッチパッドを使用しません。 Enabled :タッチパッドを使用します。
Boot Up NumLock Status (起動時のNumLockの設定)	起動時の[NumLock]の状態を設定します。 On :[NumLock]モードに設定します。 Off :[NumLock]モードに設定しません。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)	起動時のハードウェアの状態を診断するプログラムを行わずに起動するかどうかを設定します。[Enabled]を選択すると、通常の起動までの時間が短くなります。 Disabled :通常どおり診断プログラムを実行し、システムを起動します。 Enabled :診断プログラムを省略し、システムを起動します。

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Serial Port A （シリアルポートの設定）		シリアルポート（COM1）で使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3F8H IRQ4/3E8H IRQ4/2F8H IRQ3/2E8H IRQ3 Disabled　:シリアルポートを使用しません。
IR Port （赤外線ポートの設定）		赤外線ポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 赤外線ポートを使用する場合、通常は[2F8H/IRQ3]に設定します。 3F8H IRQ4/3E8H IRQ4/2F8H IRQ3/2E8H IRQ3 Disabled　:赤外線ポートを使用しません。
	Mode （赤外線ポートの通信モード設定）	IR port 項目で［3F8H IRQ4］～［2E8H IRQ3］に設定したときに表示されます。 赤外線ポートの通信モードを設定します。 FIR/SIR
	DMA Channel （赤外線ポートのDMA設定）	Mode項目で［FIR］に設定したときに表示されます。 赤外線ポートで使用するDMAチャネルを設定します。 1 / 3
Parallel Port （パラレルポートの設定）		パラレルポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7 Disabled　:パラレルポートを使用しません。
	Mode （パラレルポートの動作モードの設定）	パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺デバイスで設定指示がある場合は、指示にしたがって設定します。 Normal　: 標準の設定です。 EPP　: EPPモードに設定します。 ECP　: ECPモードに設定します。
	DMA Channel （パラレルポートのDMA設定）	動作モードにECPを選択した場合に表示されます。 パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。 1 / 3

Securityメニュー画面

「Securityメニュー画面」は、システム起動時やBIOS Setupユーティリティ起動時などのパスワードを設定する場合に使用します。
設定項目と詳細は、次のとおりです。
パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時またはBIOS Setupユーティリティ起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

User Password （ユーザーパスワードの設定）	システム起動時などにパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
HDD Password （HDDパスワードの設定）	HDDの使用時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password on boot	User Passwordの有効/無効を設定します。[Disabled]に設定されているとUser Passwordを設定してもパスワードは要求されません。 Disabled：要求しません。 Enabled ：要求します。

パスワードを要求するタイミングは、次のとおりです。

Password on boot の設定値	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ起動時	システム起動時
Disabled	User Password	Enter	—	—
		Set	×	×
	HDD Password	Enter	—	—
		Set	○	○
Enabled	User Password	Enter	—	—
		Set	○	○
	HDD Password	Enter	—	—
		Set	○	○

○：パスワード入力を要求します。　×：パスワード入力を要求しません。

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

1 **「User Password」または、「HDD Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter Password:
```

＊「HDD Password」選択時は、「Enter Hdd Password」と表示されます。

2 **パスワードを入力し、[↵] を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 **続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、[↵] を押します。**

同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

```
Confirm Password:
```

＊「HDD Password」選択時は、「Confirm Hdd Password」と表示されます。

4 **パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Set」に変わります。**

制限

登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、本製品を購入した販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

パスワード入力時の注意

パスワード設定時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、Numlockモード状態でパスワードを設定し、起動時にNumlockモードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの削除

1 **「User Password」または、「HDD Password」を選択して [↵] を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter Password:
```

＊「HDD Password」選択時は、「Enter Hdd Password」と表示されます。

2 **何も入力せずに [↵] を押すと、選択したパスワード項目の値が「Enter」に変わります。これでパスワードが削除されます。**

Powerメニュー画面

「Powerメニュー画面」は、省電力モードに関する設定を行う場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Windows98では、省電力に関する設定は、Windows上での設定が優先されます。

Power Management （省電力機能の設定）	省電力モードに移行する時間を設定します。 Max Saving ：省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。 Min Saving ：省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。 Disabled ：省電力モードを無効にします。 User Define ：省電力モードへの移行時間を設定します。
Auto Suspend Timeout （スタンバイモードの移行時間の設定）	「Power Management」項目の設定が[User Define]の場合に設定変更ができます。スタンバイモードに移行する時間を設定します。 Disabled ：スタンバイモードに移行しません。 1～2 Min～1 Hour ：スタンバイモードに移行する時間を選択できます。
HDD Power Down （HDDモータの停止時間の設定）	「Power Management」項目の設定が[User Define]の場合に設定変更ができます。HDDモータが停止状態に移行する時間を設定します。 Disabled ：HDDモータが停止状態に移行しません。 1～15 Min ：HDDモータが停止状態に移行する時間を選択できます。

Video Power Down （ビデオ信号停止時間の設定）	「Power Management」項目の設定が[User Define]の場合に設定変更ができます。ビデオ信号が停止状態に移行する時間を設定します。 Disabled　　：ビデオ信号が停止状態に移行しません。 1～2 Min～1 Hour：ビデオ信号が停止状態に移行する時間を選択できます。
Beep On Battery Low	バッテリがローバッテリモードになるときに、警告音を鳴らすかを設定します。 Enabled　：警告音を鳴らします。 Disabled　：警告音を鳴らしません。
Start Battery Refreshing （バッテリ放電の実行）	バッテリ放電を行う場合に実行します。 ☞p.32「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

「**Bootメニュー画面**」では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[1.…]のドライブから順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[1.Removable Devices]、[2. IDE Hard Drive]、[3.ATAPI CD-ROM]です。

ドライブを選択して[+]を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して[-]を押すと、そのドライブの順番が１つ下がります。

Removable Device	FDDから起動します。
IDE Hard Drive	HDDから起動します。
ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM ドライブから起動します。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	変更した内容(設定値)をBIOS Setupユーティリティを終了させずに保存します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Mainメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Type	Primary IDE	Secondary IDE	Primary IDE	Secondary IDE
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Video Display Type	CRT　Auto		CRT　Auto	
Video RAM Size	2M　4M　8M　16M　32M		2M　4M　8M　16M　32M	

Advancedメニュー画面

Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Boot Up NumLock States	On	Off	On	Off
Quick Power On Self Test	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Serial Port A	3F8H IRQ4 2F8H IRQ3	3E8H IRQ4 2E8H IRQ3	Disabled	3F8H IRQ4 2F8H IRQ3	3E8H IRQ4 2E8H IRQ3	Disabled
IR Port	3F8H IRQ4 2F8H IRQ3	3E8H IRQ4 2E8H IRQ3	Disabled	3F8H IRQ4 2F8H IRQ3	3E8H IRQ4 2E8H IRQ3	Disabled
Mode	FIR	SIR		FIR	SIR	
DMA Channel	1	3		1	3	
Parallel Port	378H/IRQ7 Disabled	278H/IRQ5	3BCH/IRQ7	378H/IRQ7 Disabled	278H/IRQ5	3BCH/IRQ7
Mode	Normal	EPP	ECP	Normal	EPP	ECP
DMA Channel	1	3		1	3	

Securityメニュー画面

User Password	(　　)		(　　)	
HDD Password	(　　)		(　　)	
Password on boot	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Powerメニュー画面

Power Management	Max Saving Disabled	Min Saving User Define	Max Saving Disabled	Min Saving User Define
Auto Suspend Timeout	Disabled	(　　)	Disabled	(　　)
HDD Power Down	Disabled	(　　)	Disabled	(　　)
Video Power Down	Disabled	(　　)	Disabled	(　　)
Beep On Battery Low	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled

Bootメニュー画面

1		
2		
3		

こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

コンピュータ本体の不具合

制限

電源を切ってからもう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

確認と対処

- バッテリだけで使っている場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- 電源コードが正しく接続されているか確認します。
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。
- 電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。**

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行なった場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後(OSの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、OSが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまで連絡ください。
  ☞p.141「警告メッセージが表示されたら」
- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期設定値に戻してください。
  ☞ p.111「設定値をもとに戻すには」
- ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。**

```
Enter Password:
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
  p.117「Securityメニュー画面」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。[Num Lock]の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
  p.40「キーボードを使う」
- パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

現象　**起動時に次のようなメッセージが表示されて、WindowsなどのOSが起動しない。**

```
Operating System not found
```

確認と対処

- 起動ディスクなどシステムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。
  p.134「HDDの不具合」

現象　**ハングアップしてしまい、何も反応しない。**

確認と対処

- [Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押してリセットします。
- リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。
  p.22「電源の切り方」

現象　**BIOS Setupユーティリティの情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

省電力機能に関する不具合

現象　**正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰します。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl＋Alt＋Deleteを押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 省電力モード移行中にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl＋Alt＋Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成したデータは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象 **充電されない**

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認します。
- 充電時にバッテリ充電LEDが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。他の電気製品を電源コンセントに接続してみます。
- 電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  ☞ p.32「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

現象 **すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。**

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  ☞ p.32「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。

キーボードの不具合

現象　**どのキーを押しても応答がない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。
  ☞ p.23「リセット」

現象　**キートップにある文字や記号が入力できない。**

確認と対処

- 日本語キーボードドライバの特性によりキートップに刻印されている一部の文字は入力できません。
  ☞ p.42「記号の入力」
- OS上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。Windows上で次のキーボードが選択されていることを「コントロールパネル」―「システム」アイコン―「デバイスマネージャ」タブ―「キーボード」で確認します。
  106日本語（A01）キーボード（Ctrl+英数）

タッチパッドの不具合

現象　**ポインタの動きが悪い。**

確認と対処

- 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。
- LCDパネルを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
  ☞ p.38「タッチパッドドライバ＆ユーティリティを使う」

LCDの不具合

現象 **LCD画面に何も表示されない。**

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。Fn+F5/Fn+F6で調節できます。

現象 **LCD画面が真っ暗で何も表示されない。**

確認と対処

- バックライトが消灯していないか確認します。Fn+F7を押してみてください。
- 表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない可能性があります。Fn+F8を押して、表示装置の設定を変更してみてください。
  p.67「表示装置の切り替え方法」
- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。
  p.91「省電力機能を使う」
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 **画面がちらつく。**

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 **画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。**

確認と対処

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Safe modeで起動し直してみてください。

Safe modeでの起動（Windows 98の場合）

Windows98をSafe modeで起動する方法は、次のとおりです。Safe modeは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。**

2 **電源を入れた直後に、Ctrlを押したまま、しばらく待ちます。**

3 **「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、↵を押します。**

4 **画面の指示に従って、操作します。**

FDDの不具合

現象　**FDに正常にアクセスできない。**

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

```
A:\
デバイスの準備ができていません。
                    [OK]
```

```
A:\にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
  [再試行]          [キャンセル]
```

```
A:ドライブにディスクを挿入してください。
                    [キャンセル]
```

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

```
ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
      [はい]                    [いいえ]
```

- 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。本機では、1.25MBフォーマットのFDは使用できません。
- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、最初のFDに異常があることが考えられます。
- 起動ディスクなどのシステムが組み込まれているFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 **FDに書き込みできない。**

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認します。
☞ p.51「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 **FDDから異常な音がする。**

確認と対処

- 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象 **それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。**

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
☞ p.113「Mainメニュー画面」

現象 **特定のファイルのみ読み書きできなくなった。**

確認と対処

- ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。
- 上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

CD-ROMドライブの不具合

現象 **セットしたCDにアクセスできない。**

確認と対処

- CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別のCD-ROM(データが登録されているもの)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。
- セットしたCDが、書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象 **セットしたCDが読み込めない。**

確認と対処

- CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレーヤー」が標準で添付されています。

現象 **音楽用CDの音が聞こえない。**

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  ☞ p.73「サウンド機能を使う」

アプリケーションソフトの不具合

現象　**アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象　**アプリケーションソフトが起動しない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象　**メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

確認と対処

- メモリモジュールを増設した場合は、メモリモジュールのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されていることを確認してください。初期設定は、8MBです。
- 購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象　**PCカードを装着しても、使用できない。**

確認と対処

- PCカードの仕様に、対応しているPCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
- PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。
- 赤外線通信をFIR通信モードで設定している場合は、PCカード（Card Bus対応以外）を2枚同時に使用することはできません。
- Card Bus対応のPCカードと、赤外線通信やECP対応デバイスを同時に使用することはできません。

プリンタの不具合

現象 **印刷できない。**

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。
- プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象 **システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。**

確認と対処

- スピーカの音声出力音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.73「サウンド機能を使う」
- スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

FAXモデムの不具合

現象　**「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。**

確認と対処

- モデムのプロパティで「詳細情報」を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

  「コントロールパネル」―「モデム」―「検出結果」タブでモデム(COM3)を選択して、[詳細情報]をクリックします。

現象　**インターネットへ接続できない**

確認と対処

- モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。
- 「コントロールパネル」―「モデム」―[ダイヤルのプロパティ]で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。
- 「モデムのプロパティ」で「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外してみます。これで接続できることがあります。
  「コントロールパネル」―「モデム」―[プロパティ]―「接続」タブ―「接続オプション」項目の「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外します。
- ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - ・全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。
  - ・大文字と小文字をきちんと区別しているか。
  - ・数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。
  - ・ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。
  - ・パスワードとメールパスワードを混同していないか。

- ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

  次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

  ❶「マイコンピュータ」-「ダイヤルアップネットワーク」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
  ❷「サーバの種類」タブ-[TCP/IP設定]をクリックしてネームサーバアドレスを確認します。

- 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

- 同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、接続できる場合もあります。

- 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

  ・極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
  ・極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
  ・プロバイダのサーバが停止している。

現象　**V.90、K56flex通信方式で通信できない。**

確認と対処

- 回線状況によって、V.90、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.90、K56flex通信方式のほかにはx2 方式がありますが、x2 方式のモデムとは、V.34 通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1 度だけ行われる場合にのみ、V.90、K56flex通信方式で接続することができます。

- PBX 回線では、V.90 、K56flex通信方式では接続できません。V.34 通信方式(33600bps)以下で接続します。

現象　**V.90、K56flex、V.34 通信方式で通信中に、通信速度が下がる。**

確認と対処

- V.90、K56flex、V.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setupユーティリティを起動して値を再設定してください。
Diskette drive A error	FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。HDDが正しく装着されているかを確認し、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Keyboard controller Failed	キーボードコントローラにエラーが発生しました。外付けキーボードが正しく接続されているか確認し、電源を入れ直します。外付けキーボードを取り外しても問題が解決しない場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したFDがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setupユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付　録

お手入れ方法やHDDを購入時の状態に戻す方法、仕様などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
販売店、サービスセンターまたは修理センターへご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムにはモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。
本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、デスクトップ上の「ATコマンドリファレンス.pdf」をご覧ください。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェアでモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。
「モデム」―[プロパティ]―「接続」タブ―[詳細]―「追加設定」

現　象	ATコマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」(V.34) または 「AT+MS=V90」(V.90) 「AT+MS=K56FLEX」(K56flex) 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例:ATM0X3

HDDを購入時の状態に戻す

本機はHDDを購入時の状態に戻すことができます。何らかの原因で、Windowsが起動しなくなったり、正常に動作しなくなったりした場合などに、購入時の状態に戻してみてください。

必要なメディア

HDDを購入時の状態に戻すには、次のCD-ROMが必要です。

● **リカバリCD-ROM**

Windows98と各種デバイスドライバが登録されているリカバリCD-ROMです。

HDDを購入時の状態に戻す順番

次の順番でHDDを購入時の状態に戻します。

リカバリの実行（☞p.150）

↓ **「リカバリCD-ROM」を使用して、HDDのフォーマット作業とWindowsとデバイスドライバのインストール作業を自動で行います。**

Windows98のセットアップ（☞p.17）

↓ **購入時に行った「Windows98のセットアップ」をもう一度行います。お客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。**

セットアップ終了後の作業（☞p.19）

↓ **各種設定と「VirusScan for Windows」のインストールなどを行います。**

各種ドライバのインストール（☞p.153）

↓ **プリンタやUSB機器などを接続している場合は、デバイスドライバのインストールを行います。「ホットキーユーティリティ」を使用する場合は、ホットキーユーティリティのインストールを行います。**

Save to Disk領域の作成（☞p.153）

省電力機能の休止状態を使用する場合に作成します。

HDDを購入時の状態に戻す前の注意

HDDを購入時の状態に戻す場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：FDD
Cドライブ　：HDD（基本MS-DOS領域）
Dドライブ　：CD-ROMドライブ

リカバリの実行

- リカバリを実行すると、HDDがフォーマットされ、Cドライブのデータはすべて消去されます。HDD上の重要なデータは、FDなどにバックアップしておいてください。
- 1つのHDDにCドライブのほかにDドライブ以降の領域を作成してある場合は、リカバリを実行する前にDドライブ以降に登録されている重要なデータをFDなどにバックアップしておいてください。リカバリ実行中にトラブルが発生した場合、Dドライブ以降の領域が消滅する可能性があります。
- 「リカバリCD-ROM」は、本機以外のコンピュータでは使用できません。
- 「リカバリCD-ROM」で、Windowsのみをインストールすることはできません。
- リカバリ実行中は、「リカバリCD-ROM」を抜かないでください。
- 本機の購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムを使用してWindowsをインストールしています。ファイルシステムを変更しても、リカバリを実行するとFAT32ファイルシステムでWindowsがインストールされます。
- デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに、「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、「リカバリCD-ROM」をセットせずに、「C:\WINDOWS\OPTIONS\CABS」を指定してください。
- 本章の手順は、購入時のシステム構成を前提に記載しています。本機を購入後に周辺機器を取り付けた場合は、手順が異なる場合があります。正常に購入時の状態に戻せない場合は、購入時のシステム構成に戻してみてください。

セットアップ時の手順について

リカバリ実行後の「Windows98のセットアップ」では、「日付と時刻の設定」と「お知らせの確認」に関する手順は行いません。そのまま「セットアップ終了後の作業」に進んでください。

セットアップ終了後の作業

「セットアップ終了後の作業」の「Windows98起動ディスクの作成」は、必要に応じて行ってください。通常は、購入後電源を初めて入れたときに行う「Windows98のセットアップ」後に一度行っているため、必要ありません。

制限

弊社製以外のBIOSを使用すると、HDDを購入時の状態に戻すことができなくなります。

リカバリの実行

次の手順でHDDを購入時の状態に戻します。

1 **コンピュータの電源を入れて、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。**

p.109「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 **「Bootメニュー画面」－「ATAPI CD-ROM」の起動順位を1番に変更します。**

p.120「Bootメニュー画面」

3 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

4 **「Exitメニュー画面」－「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。コンピュータが起動します。**

5 **「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。**

6 **「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。**

7 **ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、10分程かかります。**

8 **「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、CD-ROMドライブから「リカバリCD-ROM」を抜いて[再起動]をクリックします。**

9 **コンピュータ再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、起動順位をもとに戻します。**

10 **コンピュータが再起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。**

p.17「Windows98のセットアップ」

- プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。HDDを購入時の状態に戻してから、周辺機器に添付のマニュアルを参照して、デバイスドライバのインストールを行ってください。
- 再起動の画面が表示された場合は再起動します。

VirusScan for Windowsのインストール

デバイスドライバやソフトウェアインストール時の注意

「VirusScan for Windows」インストール後に、本機に新しくデバイスドライバやソフトウェアをインストールする場合は、一時的に「VirusScan for Windows」を［使用不可］に設定します。［使用不可］に設定しないとソフトウェアのインストール時などに不具合が発生する場合があります。

［使用不可］の設定方法

画面右下の「McAfee Vshield」アイコンを右クリックし、「使用可能」項目内のすべての項目をクリックし、チェックマークを外します。インストール後は、［McAfee Vshield］アイコンを右クリックし、「使用可能」項目内のすべての項目にチェックマークを付け「使用可能」の状態に戻します。

エマージェンシーディスクの作成

「エマージェンシーディスク」は、システムファイルが未知のウィルスに感染したときに、システムを安全に起動するためのディスクです。万一に備えてインストール終了後すぐに作成しておいてください。
作成する前に、あらかじめフォーマット済みのFDを2枚用意してください。「エマージェンシーディスクの作成」は、次の画面で作成します。
［スタート］－「プログラム」－「McAfee VirusScan」－「McAfee VirusScanセントラル」－［オプション］－「ツール」－「エマージェンシーディスク」

インストール方法

「VirusScan for Windows」のインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**

2 **［スタート］をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。**

3 **「名前」に次のように入力して［OK］をクリックします。**
D:\MCAFEE\SETUP
（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

4 **「VirusScan 5.02Jセットアップ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

5 **「使用許諾契約」画面が表示されたら、「使用許諾契約の条項に同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。**

6 「セットアップ方法」画面が表示されたら、通常は「すべて」にマークが付いている状態で［次へ］をクリックします。

7 「設定のセットアップ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

8 「プログラムのインストール準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。

9 「設定のセットアップ」画面で、次の２項目のチェックを外し、［次へ］をクリックします。
・「VirusScanアップデートを実行します」
・「レスキューディスクセットを作成します」

10 「Readmeの表示」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

11 「readmeーメモ帳」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、「readme ーメモ帳」画面を閉じます。

12 「VirusScan 5.02Jセットアップウィザード完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

13 「・・・今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブから抜き、［はい］をクリックします。

14 再起動後に、画面右下に表示されている「McAfee Vshield」アイコンを右クリックして「プロパティ」ー「システムスキャン」をクリックします。

15 「システムスキャン プロパティ」画面の「スキャン」タブの「フロッピーのスキャン」項目にある「シャットダウン」項目をクリックし、チェックマークを外します。

16 ［OK］ボタンをクリックします。
これでVirusScan for Windowsのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアルをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。

参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになる仕様によって次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB機器を使用する場合　：　USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　：　プリンタに添付のドライバ

ホットキーユーティリティのインストール

ホットキーユーティリティを使用する場合は、「ホットキーユーティリティ」のインストールが必要です。

p.44「ホットキーユーティリティのインストール」

Save to Disk領域の作成

Save to Disk領域は、省電力機能の「休止状態」を使用する場合に必要なHDD内の領域です。Save to Disk領域に作業内容を保存し、休止状態に移行します。Save to Disk領域が作成されていないと、休止状態に移行することはできません。休止状態を使用しない場合は、Save to Disk領域の作成は必要ありません。

p.91「省電力機能を使う」

本機では、Save to Disk領域をHDD内に「ファイル」として作成します。ただし、この「ファイル」は表示されません。

購入時のSave to Disk領域

購入時のHDDには、Save to Disk領域は設定されていません。必要に応じて領域作成してください。

メモリモジュール増設後の作業

メモリモジュールの増設を行った場合は、Save to Disk領域を一度削除し、作成しなおす必要があります。

Save to Disk領域の作成

Save to Disk領域の作成は、「Save to Disk領域作成/削除ユーティリティ」を使用して行います。
「Save to Disk領域作成/削除ユーティリティ」は、コンピュータに搭載されているメモリモジュールの容量に合わせて、自動的にSave to Disk領域を作成します。

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

p.157「起動方法」

2 **コマンドプロンプト「A:\>」と表示されたら、「A:\>」のあとに続けて次のように入力し、↵を押します。**

ZVHDD□/C□/FILE　（□はスペースを意味します。）

3 **「Press any key to reset the system…」と表示されます。「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブから抜き、何かキーを押します。**
コンピュータが再起動すると、Save to Disk領域の作成は終了です。

作業が終了したら、忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」で起動順位をもとに戻しておいてください。

Save to Disk領域の削除

Save to Disk領域の削除は、「Save to Disk領域作成/削除ユーティリティ」を使用して行います。

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

p.157「起動方法」

2 **コマンドプロンプト「A:\>」と表示されたら、「A:\>」のあとに続けて次のように入力し、↵を押します。**

ZVHDD□/D□/FILE　（□はスペースを意味します。）

3 **「Press any key to reset the system…」と表示されます。「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブから抜き、何かキーを押します。**
コンピュータが再起動すると、Save to Disk領域の削除は終了です。

作業が終了したら、忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」で起動順位をもとに戻しておいてください。

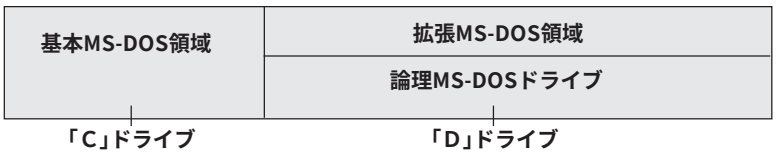
HDD領域の変更

MS-DOS領域の種類

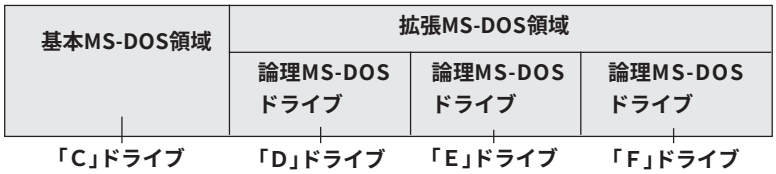
MS-DOS領域には、**「基本MS-DOS領域」**と**「拡張MS-DOS領域」**の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合に必要になります。
Windowsを使用する場合には、これらの領域は**「C」**ドライブや**「D」**ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。
基本MS-DOS領域は必ず**「C」**ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて**「C」**ドライブとなります。これに対して、**「C」「D」「E」**ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして区分けされ、**「D」「E」**などの論理ドライブになります。
基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合

基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

HDD領域の変更はMS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいときなどに行います。通常、このような作業を行う必要はありません。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を作成しなくてはなりません。
HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。

制限

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除

最初に既存の領域を削除します。HDD領域の削除は、**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS領域」→「基本MS-DOS領域」**の順番で行います

MS-DOS領域の作成

使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域の作成は、**「基本MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域」→「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」**の順番で行います。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは「リカバリ CD-ROM」に登録されています。

大容量ディスクサポートとは

FDISKコマンドを起動すると「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。「大容量ディスクのサポート」とは、大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32ファイルシステムのことです。
大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16ファイルシステム)の基本MS-DOS領域の最大サイズは2GBです。大容量ディスクサポート(FAT32ファイルシステム)を使用すると、2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。
本機の購入時のHDDは、FAT32ファイルシステムで設定してあります。リカバリを実行すると、ファイルシステムを変更してもFAT32ファイルシステムに設定されます。

既存領域の削除

次の方法でコンピュータ起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

起動方法

1. **コンピュータの電源を入れて、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。** p.109「BIOS Setupユーティリティの起動」
2. **「Bootメニュー画面」—「ATAPI CD-ROM」の優先順位を1番に変更します。** p.120「Bootメニュー画面」
3. **「リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。**
4. **「Exitメニュー画面」—「Exit Savings Changes」で[Yes]を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**
5. **コンピュータが再起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックします。**
6. **画面左上にコマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。**

作業が終了したら、忘れずに「BIOS Setupユーティリティ」で起動順位をもとに戻しておいてください。

既存領域の削除

1 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して [↵] を押します。**

FDISK

2 **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y / N)」と表示されます。[N] または [Y] を押して [↵] を押します。**

Windowsをインストールする領域を作成する場合は「Y」を選択します。

3 **処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。[3] を押してから [↵] を押します。**

4 **「MS-DOS 領域または拡張MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。**

基本MS-DOS 領域は、拡張MS-DOS領域があると削除できません。**「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」→「拡張MS-DOS 領域」→「基本MS-DOS 領域」**の順番で削除することができます。

ここでは基本MS-DOS 領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS 領域以外の削除については画面のメッセージに従ってください。)

[1] を押してから [↵] を押します。

5 **削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して [↵] を押します。**

6 **削除する領域のボリュームラベルを入力し、[↵] を押します。**

初期設定は、次のとおりです。

WINDOWS_98(_は [Shift]+[ろ] を押します)。

7 **確認メッセージが表示されたら、[Y] を押して [↵] を押します。**

基本MS-DOS領域が削除されます。

8 **[Esc] を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。**

領域を作成する場合は、「MS-DOS領域の作成(p.159)」手順4に移ります。

9 **FDISKを終了する場合は、[Esc] を押します。**

10 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。**

これでMS-DOS領域の削除は終了です。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS領域の作成

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

p.157「起動方法」

2 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して [↵] を押します。**

FDISK

3 **「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。[N] または [Y] を押して [↵] を押します。**

Windowsをインストールする領域を作成する場合は、「Y」を選択します。

4 **処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1] を押してから [↵] を押します。**

5 **「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本MS-DOS領域を作成」を選択します。[1] を押してから [↵] を押します。**

6 **「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを･･･」とメッセージが表示されます。**

最大サイズは、大容量ディスクサポートを行った場合は全容量、行っていない場合は2GBです。

7 **[Y]を入力した場合と[N]を入力した場合で次のように作業が異なります。**

- [Y]を入力して[↵]を押した場合

  基本MS-DOS領域が最大サイズで作成され、アクティブに設定されます。FDISKを終了させてから[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押して、コンピュータを再起動します。

  大容量ディスクサポートを行った場合は、再起動後にフォーマットを行います。ただし、作成した領域にWindowsをインストールする場合は、フォーマットを行う必要はありません。Windowsのインストールを行ってください。

  p.150「リカバリの実行」

  大容量ディスクサポートを行っていない場合に、拡張MS-DOS領域を作成するには、再起動後に手順12に進みます。

- [N]を入力して[↵]を押した場合

  [N]を押すと**「領域のサイズを･･･入力してください。」**とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。

8 **基本 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

9 **処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。**

10 **「アクティブにしたい･･･」とメッセージが表示されます。[1]を押してから[↵]を押します。**

11 **「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。[Esc]を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。**

拡張MS-DOS領域と論理MS-DOSドライブの作成

12 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。[1]を押してから[↵]を押します。

13 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。[2]を押してから[↵]を押します。

14 「領域のサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま[↵]を押してください。

15 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。[Esc]を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。

16 「論理ドライブのサイズを・・・入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、[↵]を押します。

17 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、[Esc]を数回押して、FDISKを終了します。

18 コマンドプロンプト(A:\>)が表示されます。

これでMS-DOS領域の作成は終了です。Windowsをインストールする領域(Cドライブ)以外の領域は、再起動後フォーマットを行ってください。

p.162「MS-DOS領域のフォーマット」

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。フォーマットの手順は、次のとおりです。

1 **「リカバリCD-ROM」を使ってコンピュータを起動します。**

☞ p.157「起動方法」

2 **コマンドプロンプト(A:\>)が表示されたら、次のとおり入力して [↵] を押します。(Dドライブをフォーマットする場合)**

FORMAT□D:（□はスペースを意味します）

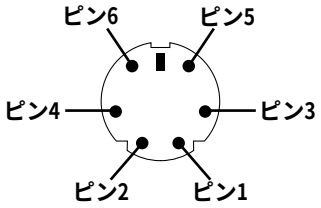
3 **「フォーマットしますか(Y/N)?」と確認のメッセージが表示されたら、[Y] を押して [↵] を押します。フォーマットが開始されます。**

4 **フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して [↵] を押します。**

必要のない場合は、そのまま [↵] を押します。コマンドプロンプト(A:\>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

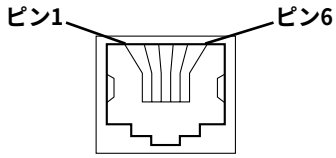
コネクタ仕様

キーボード・マウスコネクタ



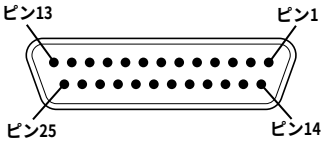
ピン番号	信号	意味
1	DATA	データ信号
2	Reserved	システム予約
3	GND	接地
4	+5V	電源
5	CLK	クロック
6	Reserved	システム予約

モデムコネクタ



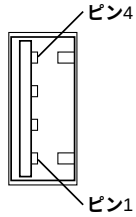
ピン番号	信号	意味
1	NC	未接続
2	NC	未接続
3	Ring	アナログオーディオ信号(モデム)
4	Tip	アナログオーディオ信号(モデム)
5	NC	未接続
6	NC	未接続

パラレルコネクタ



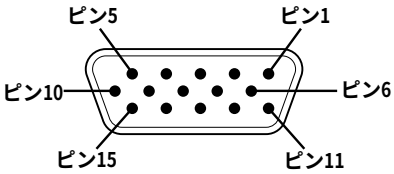
ピン番号	信号	意味
1	$\overline{\text{STROBE}}$	D0～D7有効信号
2	D0	Data Bit0(印字データ)
3	D1	Data Bit1
4	D2	Data Bit2
5	D3	Data Bit3
6	D4	Data Bit4
7	D5	Data Bit5
8	D6	Data Bit6
9	D7	Data Bit7
10	$\overline{\text{ACK}}$	データ受信
11	BUSY	データ受信不可
12	PE	用紙切れ
13	SLCT	プリンタセレクト
14	$\overline{\text{AUTFD}}$	オートフィードモード
15	$\overline{\text{ERROR}}$	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	初期化
17	$\overline{\text{SLCTIN}}$(DIR)	プリンタセレクトイン(データ方向)
18～25	GND	接地

USBコネクタ



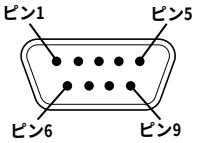
ピン番号	信号	意味
1	VCC	電源
2	－Data	信号
3	＋Data	信号
4	Ground	グランド

VGAコネクタ



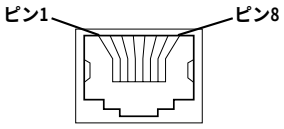
ピン番号	信号	意味
1	Red Video	赤映像信号
2	Green Video	緑映像信号
3	Blue Video	青映像信号
4	NC	未使用
5	GND	接地
6	Red GND	接地(赤)
7	Green GND	接地(緑)
8	Blue GND	接地(青)
9	NC	未使用
10	GND	接地
11	NC	未使用
12	DDCSTD	DDCデータ
13	HSYNC	水平同期信号
14	VSYNC	垂直同期信号
15	DDCSLK	DDCクロック

シリアルコネクタ



ピン番号	信号	意味
1	DCD	キャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	GND	各信号線の接地
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	RI	被呼表示

LANコネクタ
(10 Base-T/100 Base-TX)



ピン番号	信号	意味
1	TD+	送信データ (LAN)
2	TD−	送信データ (LAN)
3	RD+	送信データ (LAN)
4	NC	未接続
5	NC	未接続
6	RD−	送信データ (LAN)
7	NC	未接続
8	NC	未接続

機能仕様一覧

CPU		Mobile Intel Celeronプロセッサ
	キャッシュメモリ	32KB内蔵(命令16KB+データ16KB)
	セカンドキャッシュ	128KB
メモリ	ROM	BIOSその他(256KB FLASH ROM使用)
	メインメモリ	64MB(100MHz、SDRAM)標準搭載 最大192MBまで増設可能(SODIMMソケット×1)
ビデオ	コントローラ	SiS630 AGP set Integrated 2D/3D graphics
	バス	AGPバス
	ビデオメモリ	8MB
画面表示	液晶タイプ	13.3TFT XGAカラー液晶　1024×768ドット、True Color (32ビット)*
	外部ディスプレイ接続	1280×1024ドット、True Color(32ビット)
サウンド	コントローラ	SIS630 Integrated AC'97
	バス	PCIバス
キーボード		OADG準拠87キー(Windowsキー、アプリケーションキー付き)
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	FDD	3.5型FDD1基内蔵
	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵
	CD-ROMドライブ	最大24倍速CD-ROMドライブ1基内蔵
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠　D-SUB　25ピン　マルチモード双方向　SPP/ECP/EPPサポート)
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠　D-SUB　9ピン)
	VGAインタフェース	1(アナログRGB　D-SUB　15ピン)
	キーボード/マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換　ミニDIN　6ピン)
	サウンドインタフェース	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	IrDA	IrDA1.1準拠　FIR(最大4Mbps)、SIR(115.2Kbps)
	USB	2
	モデムインタフェース	FAXモデム**(RJ-11 V.90/K56flex対応)
	LANインタフェース	ネットワーク(RJ-45 10Base.T/100Base-TX自動確認)
PCカードスロット		2スロット内蔵　TypeII ×2または TypeIII ×1 (PC Card Standard準拠CardBus対応)
カレンダ時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源	ACアダプタ	入力AC100V±10V, 50/60Hz、出力DC 19V、2.6A　重量240g
	バッテリパック	容量 3700mAH Ni-MH 9.6V 動作時間　約1.5時間
温湿度条件		温度:10～35℃ 湿度:20～80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約300(幅)× 250(奥行)× 41(高さ)mm(突起部除く)
重量		本体:約3.0Kg(バッテリ装着時)
消費電力		最大50W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		20W(待機時消費電力)

*　グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。

**　認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。

用語集

本書で使用している用語で、本文中で説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に解説します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

● **ACPI**

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● **BIOS(バイオス)**

Basic Input Output Systemの略です。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもので、コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
＝BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

● **BIOS Setupユーティリティ**

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

● **CPU**

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心、頭脳。

● **DMAチャネル**

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードで使用するDMAチャネルを設定する。

● **DRAM(ディーラム)**

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。
メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● **FAT32ファイルシステム**

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を１つのドライブとして使用することができます(FAT16ファイルシステムでは、2GBまで)。

● **I/Oポートアドレス**

CPUと周辺機器(回路)とでデータを入出力するためのアドレス(番地)のことです。

使用例 SCSIカードで使用するI/Oポートアドレスは330hです。

● **IDE**

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法（インタフェース）を定めた規格の一種で、HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

● **IRQ**

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号です。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● **IRQ番号**

IRQの信号を区別するための名前。16本の信号にIRQ0からIRQ15までの名前が付いています。

IRQ信号を使用する場合には、重複しないように設定する必要があります。

使用例 サウンドカードではIRQ7を使用します。

● **OS**

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのこと。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● **RAM（Random Access Memory）**

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● **ROM（Read Only Memory）**

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持し続けます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● **RS232C**

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● **SDRAM**

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● **SODIMM**

Single Outline Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● **USB**

Universal Serial Busの略です。比較的低速な機器をシリアル通信で接続するための規格です。USB対応のキーボードやマウス、ジョイスティックなどを接続して使用します。

● **VGA**

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

● **アップロード**
手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● **アクセス**
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。
使用例 HDDにアクセスする。＝HDDのデータを読み書きする。

● **アクセスランプ**
HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。
使用例 HDDアクセスランプ

● **アドレス**
メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。
使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

● **アプリケーションソフト**
プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● **インストール**
ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。
使用例 サウンドドライバをインストールします。

● **インタフェース**
コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。
使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

● **オフライン**
コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● **オンライン**
他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● **解像度**
画面表示の細かさのことです。
使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

● **外部キャッシュメモリ**
CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。
類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

● **カーソル**
文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。
使用例 マウスカーソル

● **起動する**

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

● **キャッシュ処理、キャッシュ機能**

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

● **コマンド**

コンピュータに与える命令です。
命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

● **サーバ**

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● **システム**

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。＝コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

● **ディスプレイ**

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

● **ダイヤルアップ接続**

FAXモデムで、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● **ダウンロード**

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● **ドット**

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度＝画面上に1024×768個の点を表示することができます。

● **内部キャッシュ**

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● **バス**

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、ISAバス

● **パラメータ**

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

● **ハングアップ**

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● **ファイル**

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

● **物理ドライブ**

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● **ブラウザ**

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページを見ることを「ブラウジング」と言います。

● **プラグアンドプレイ**

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

完全なプラグアンドプレイを実現するためには拡張カードや周辺機器、BIOSやOSなど、それぞれでサポートする必要があります。

PCIバス用拡張カードではプラグアンドプレイに対応していますが、古いISAバス用拡張カードは対応していないものがあります。

● **プログラム**

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

● **プロトコル**

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● **ポート**

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● **メッセージ**

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● **メインメモリ**

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 本機のメモリ容量(＝メインメモリ)は64MBです。

● **メモリ**

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● **メモリチェック**

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● **モデム**

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● **リソース**

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

● **論理ドライブ**

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD) 48
2DD(FDD) 48
3.5型FDD 7

A

ACアダプタコネクタ 10
ACアダプタの接続 14
ACアダプタの使用 26
Adobe Acrobat Reader 5
ATコマンド 146

B

BIOS Setupユーティリティ 108
　設定項目 113

C

CapsLock 41
CardBus 57
CD-ROM 54
CD-ROMイジェクトホール 7
CD-ROMイジェクトボタン 7
CD-ROMドライブ 54
　～の不具合 135
COAラベル 2
CRTディスプレイ 66

F

FAT32ファイルシステム 21
FAXモデム 76
　～の不具合 139
　インターネットに接続する 78
FD（フロッピーディスク） 48
FDD（フロッピーディスクドライブ） 48
　～の不具合 133
FDDイジェクトボタン 7
FDISKコマンド 157
FIR 61
Fnキー 40
FORMATコマンド 156

H

HDD（ハードディスクドライブ） 52
　～領域の変更 155
　～の不具合 134

I

ISDN 79
Internet Explorer 87
IrDA 61

L

LANコネクタ 10, 106
LCD画面のお手入れ 144
LCDユニット 65
LCDの不具合 132

M

MS-DOS領域 155
MS-DOS領域のフォーマット 162
MS-IME 42

N

NumLock 41

O

Outlook Express 87

P

Passwordの設定 117
PBX 76
PCカード 57

～の不具合 137
PCカードスロット 9, 57
PCカードイジェクトボタン 9

S

Safe mode 71, 132
SIR 61
SODIMM(メモリ) 101
～の不具合 137
Save to Disk領域 91, 101, 147, 153

U

URL 88
USBコネクタ 10, 98, 106

V

VGAコネクタ 10, 106
Virus Scan for Windows 98, 151

W

Windows98
～のセットアップ 17
～起動ディスクの作成 19
Windowsキー 40, 43

50音順

あ

アイコン ..... (10)
アウトルックエクスプレス 87
アクセスLED 8

い

インターネットに接続 78
インターネットエクスプローラ 87

う

ウィルス 98

え

液晶ディスプレイ 65

お

オーディオ機器の接続 74
お手入れ 144

か

解像度の変更 71
拡張MS-DOS領域 155

き

キーボード 40
～の不具合 131
起動方法 157
機能キー 40
機能仕様一覧 165
休止状態 91, 153
強制取り出し(CD-ROM) 56

く

クリック 37

け

警告メッセージ 141
ケンジントンロック 7

こ

コネクタ仕様 163
コンピュータウィルス 98

さ

サウンド機能 73

し

システムの拡張 99
シリアルコネクタ 10, 98, 106
仕様 165
省電力機能 91
　～に関する不具合 129

す

数値キー 40
スタンバイ 91
ステレオスピーカ 7
　～の不具合 138

せ

赤外線通信 61
赤外線ポート 9
セットアップ 15

た

ダイヤルアップ接続 83
大容量ディスクサポート 157
タスクバー ..... (10)
タッチパッド 36
　～の不具合 131
タブ ..... (10)
ダブルクリック 37

つ

通信モード 61

て

ディスプレイ 65
　～の接続（CRT) 66
　～の不具合(LCD) 132
デスクトップ ..... (10)
電源スイッチ 9
電源の入れ方 15
電源の切り方 22
電源LED 8
添付ソフトウェア 5
電話回線への接続 13

と

ドラッグアンドドロップ 37

な

内蔵ステレオスピーカ 7

に

日本語入力システム 42
入力キー 40

ね

ネットワーク 97
　～に接続する 13

は

ハードディスクドライブ（HDD） 52
　～のフォーマット 53
　～の領域の変更 155
　～の不具合 134

パスワード 117
バックライト 65
バッテリパック 26
　～の装着 12
　～の交換 33
　～の不具合 130
パラレルコネクタ 10, 97, 106
ハングアップ 23

ひ

表示色の変更 71
表示装置 65

ふ

フォーマット（FD） 50
フォーマット（HDD） 53
復帰（省電力機能） 96
プリンタの不具合 138
フロッピーディスクドライブ（FDD） 48
　～の不具合 133
フロッピーディスク（FD） 48
プロバイダ 77

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 9, 106

ほ

ボタン ..... (10)
ホットキー 44
　～ユーティリティのインストール 44

ま

マイク入力コネクタ 9, 106
マウスコネクタ 7

め

メールの送受信 90
メモリ（SODIMM） 100
　～の不具合 137

も

モデム 76
　～の不具合 139
モデムコネクタ 10, 106

ら

ライトプロテクト（FD） 51
ライン入力コネクタ 9, 106

り

リカバリ 147
　リカバリCD 147
　リカバリの実行 150
リセット 23
リセットホール 24

ろ

論理MS-DOSドライブ 155

Memo

Memo

Memo

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

漏洩電流自主規制について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Celeron は Intel Corporation の商標です。
PS/2は International Business Machines の登録商標です。
VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

© エプソン販売株式会社 2001

(D)

エプソン販売 株式会社

PRINTED WITH SOY INK 大豆油インキを使用しています。

このユーザーズマニュアルは再生紙を使用しています。

C77132010 01.01-00.10(SO)